

射水市
小杉駅周辺地区まちづくり基本構想
(素案)

令和3年2月

射 水 市

目次

第1章 基本構想の概要	1
1 基本構想策定の背景	1
2 基本構想策定の目的	1
3 対象地域	2
4 基本構想の期間	2
第2章 小杉駅周辺地区の現状と課題	3
1 本地区の現状	3
2 市民等の意向	18
3 本地区の特性と課題	23
第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針	26
1 まちづくりの将来像	26
2 まちづくり方針	26
第4章 小杉駅周辺地区の整備について	46
1 土地利用ゾーニング	46
第5章 基本構想の推進に向けて	54
1 事業手法	54
2 駅の都市機能集約化イメージ	55

第1章 基本構想の概要

1 基本構想策定の背景

基本構想とは、市民が希望を持ち、魅力あるまちづくりを推進していくための将来都市像等、本市が進むべきまちづくりの方向性を示すものである。

小杉駅周辺のまちづくりについては、平成2年に「小杉駅前地区市街地再開発基本計画」が策定され、その計画をもとに整備が検討されてきたところである。

平成17年に本市が誕生し、小杉駅は本市の陸の玄関口としての役割を担う等、まちづくりの重要な拠点として位置付けられている。

本市誕生から15年が経過し、新たな都市計画マスタープランが策定され、今後20年のまちづくり、都市計画の方向性が示されたことから、小杉駅周辺地区の新たなまちづくりの都市像を位置付けるものである。

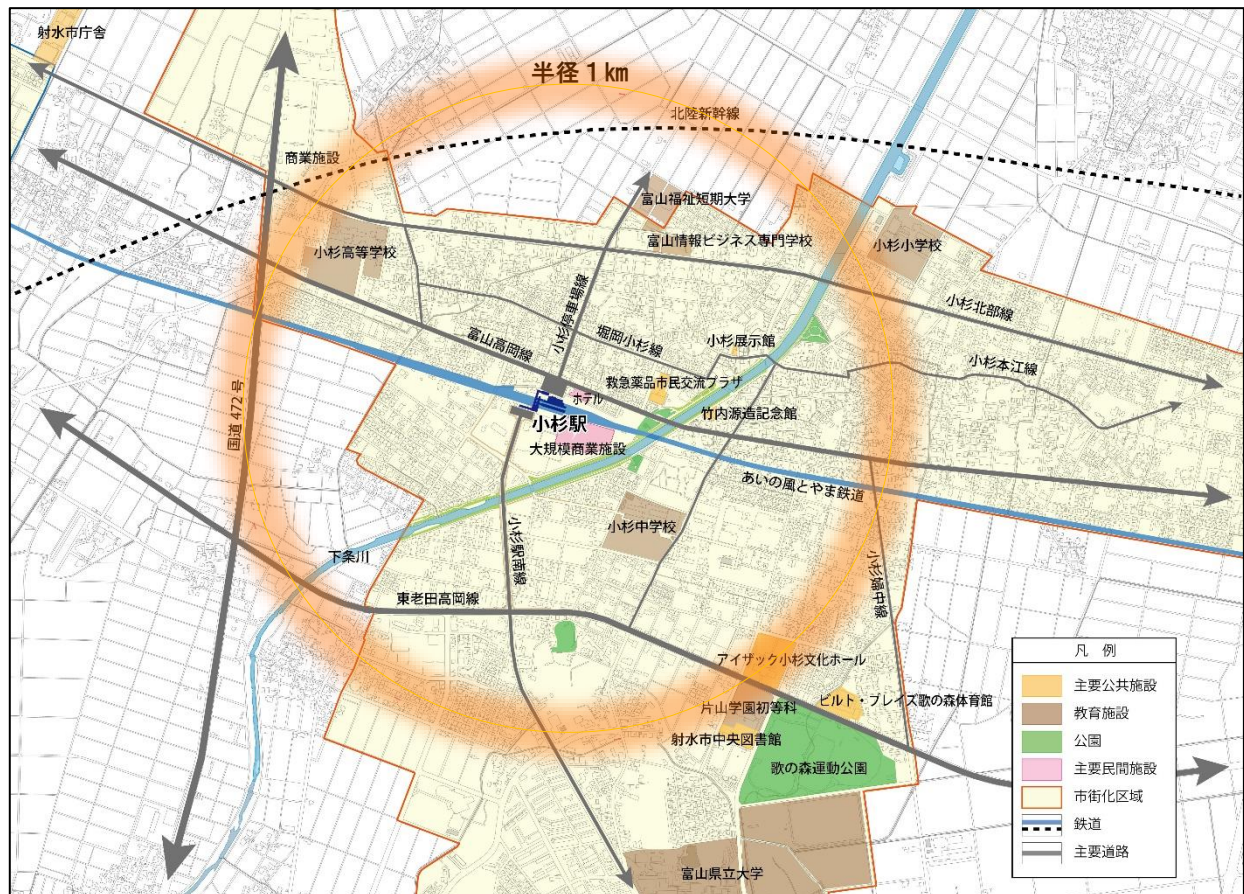
2 基本構想策定の目的

「射水市都市計画マスタープラン」で示すまちづくりの基本的な方向性をもとに、社会環境や地域を取り巻く状況の変化等を捉えながら、小杉駅周辺地区のまちづくりの方向性や将来に向けた地区整備のあり方等を明確にし、その実現に向けて市民や事業者、各種団体等が連携・協議・協力することを目的に「小杉駅周辺地区まちづくり基本構想」を策定する。

3 対象地域

対象区域は駅周辺における都市機能の集積や市街地のまとまり及び一般的な徒歩圏等を勘案して、小杉駅を中心とするおおむね半径約 1km 圏内の市街化区域を基本とする。

また、射水市太閤山地区リノベーション計画の対象エリアと一部重複することから、互いの強みを連携する等、より魅力的なエリアとなるよう計画期間内で調整を図りながら、事業を進める。



4 基本構想の期間

基本構想に掲げる各種取組の事業化までの期間はおおむね 20 年とし、その期間を短期・中期・長期の 3 つの期間に区分する。

第2章 小杉駅周辺地区の現状と課題

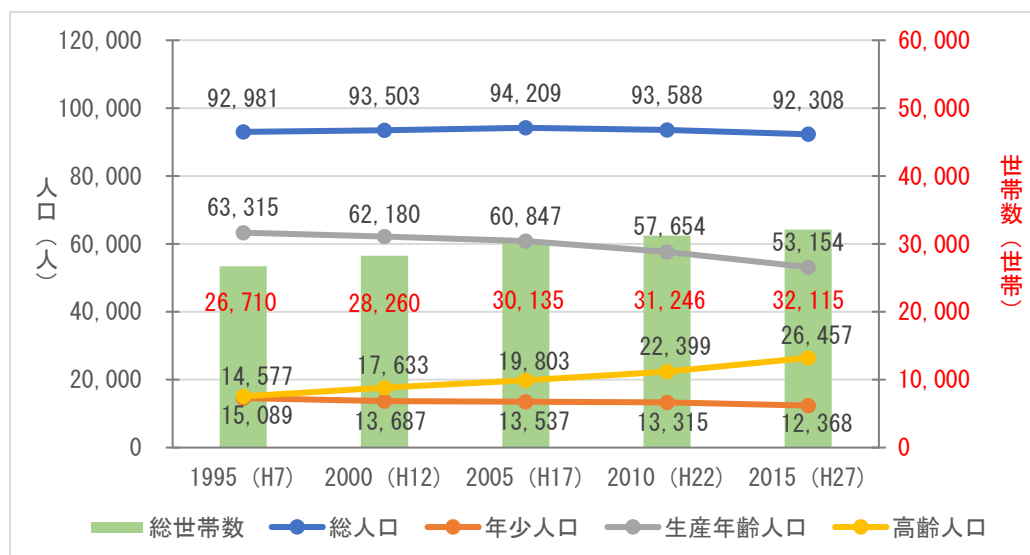
1 本地区の現状

(1)人口・世帯数

① 人口・3区分別人口の推移

平成 27（2015）年国勢調査時点で、本市の人口は 92,308 人であり、うち小杉駅周辺地区の人口は 13,478 人である。市の人口が減少傾向にある中で、本地区の人口は増加傾向にある。

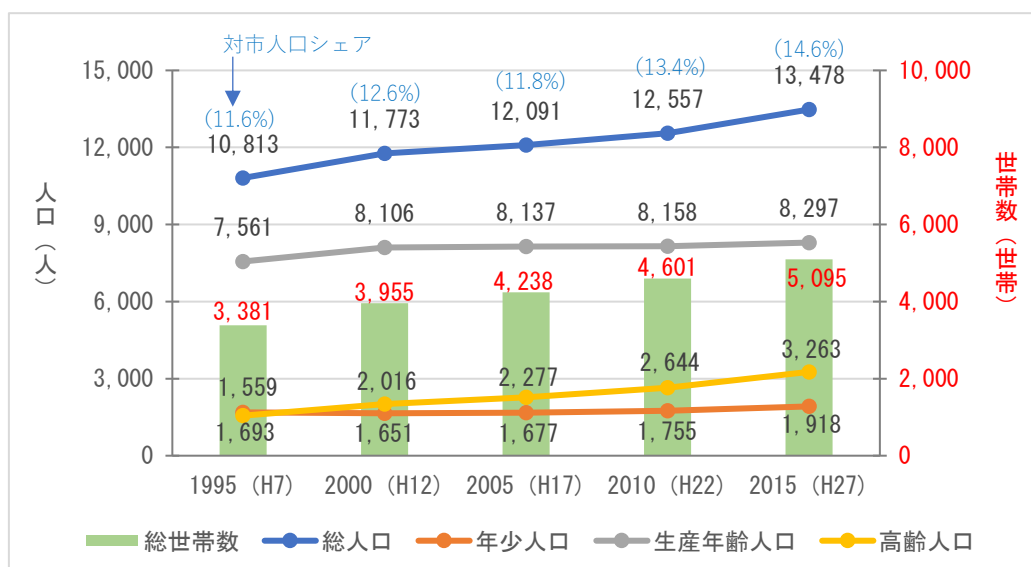
〈本市の人口・世帯数推移（H7～H27）〉



資料:国勢調査

※3区分別人口:年少人口(15歳未満人口)、生産年齢人口(15～64歳人口)、高齢人口(65歳以上人口)の3区分に分けた人口

〈本地区の人口・世帯数推移（H7～H27）〉

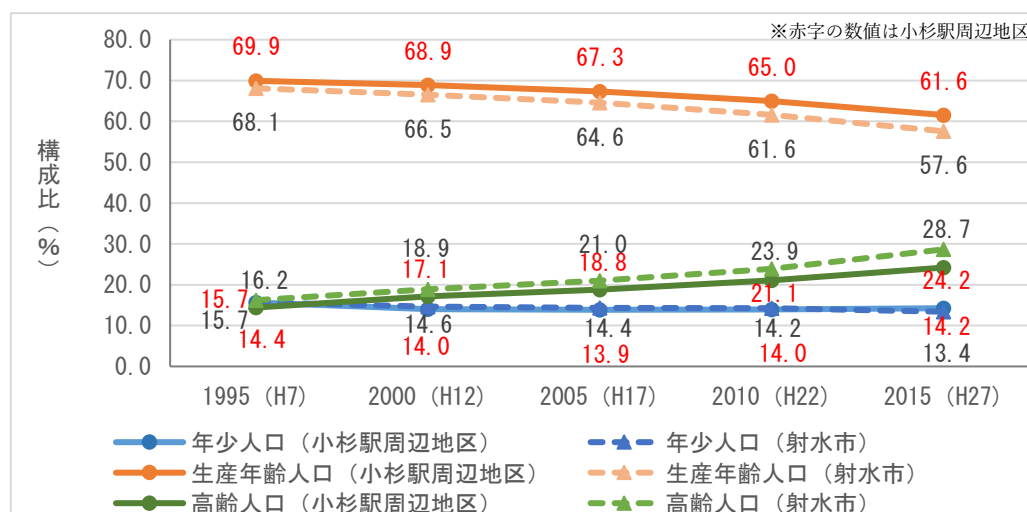


資料:国勢調査

② 本市全体と本地区の3区分別人口割合の推移

平成 27 (2015) 年の本地区の高齢化率は 24.2% で、本市全体 (28.7%) よりやや低く、年少人口率は 14.2% で、本市全体 (13.4%) よりやや高い。

〈市全体と本地区の3区分別人口割合の推移(H7～H27)〉

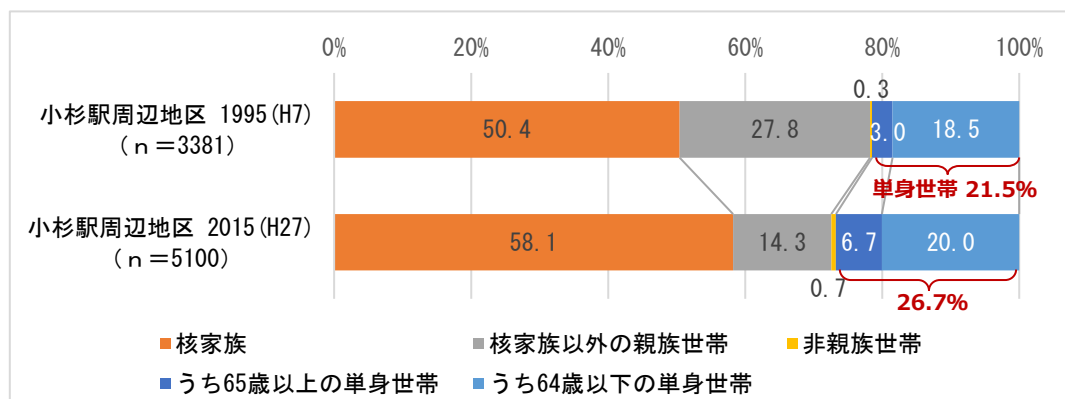


資料: 国勢調査

③ 本地区の世帯類型別世帯数の推移

本地区の世帯総数は増加傾向にあり、特に核家族世帯、単身世帯（特に 65 歳以上の単身世帯）が増加している。

〈本地区の世帯類型別世帯数の推移(H7～H27)〉

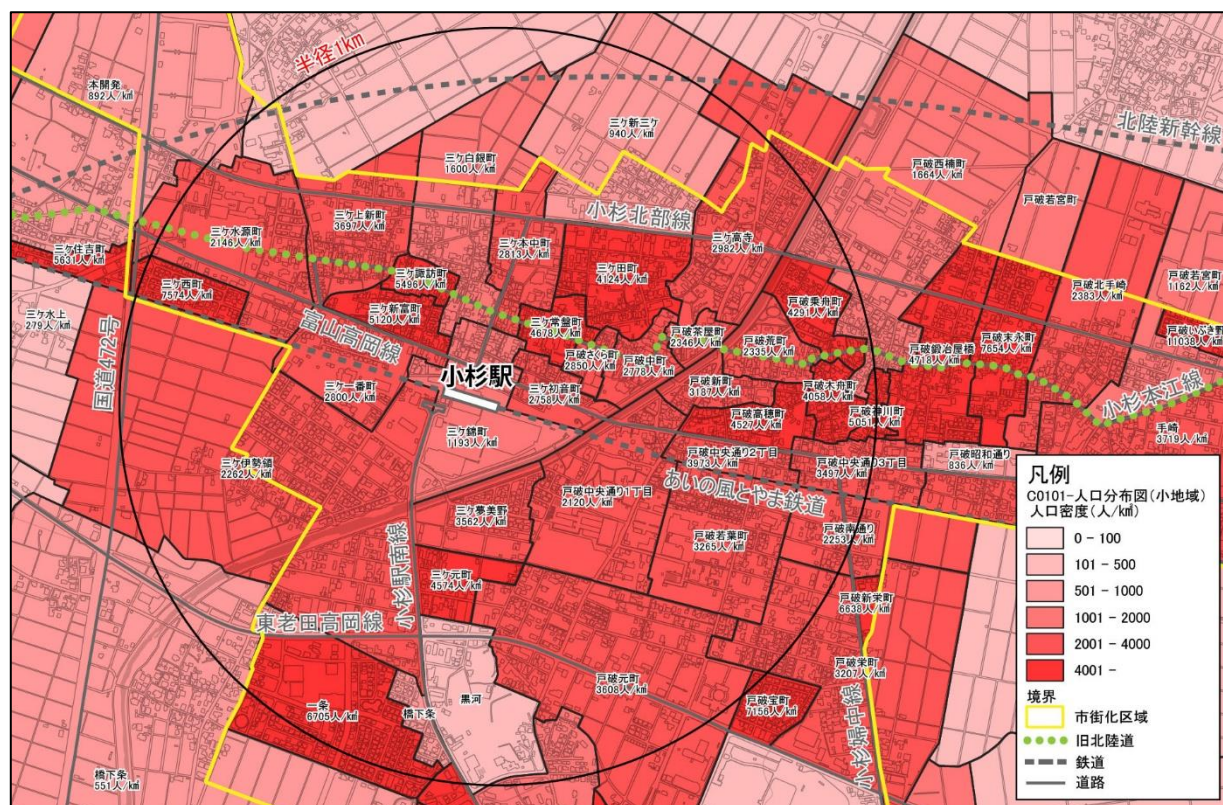


資料: 国勢調査

④ 地区別人口密度

旧北陸道を中心に古くから形成された市街地並びにその周辺地域の住宅開発地等では人口密度が高い地区が多く、市街化区域の大部分は4,000人/㎢以上のDID（人口集中地区）である。

〈本地区における地区別人口密度(H27)〉



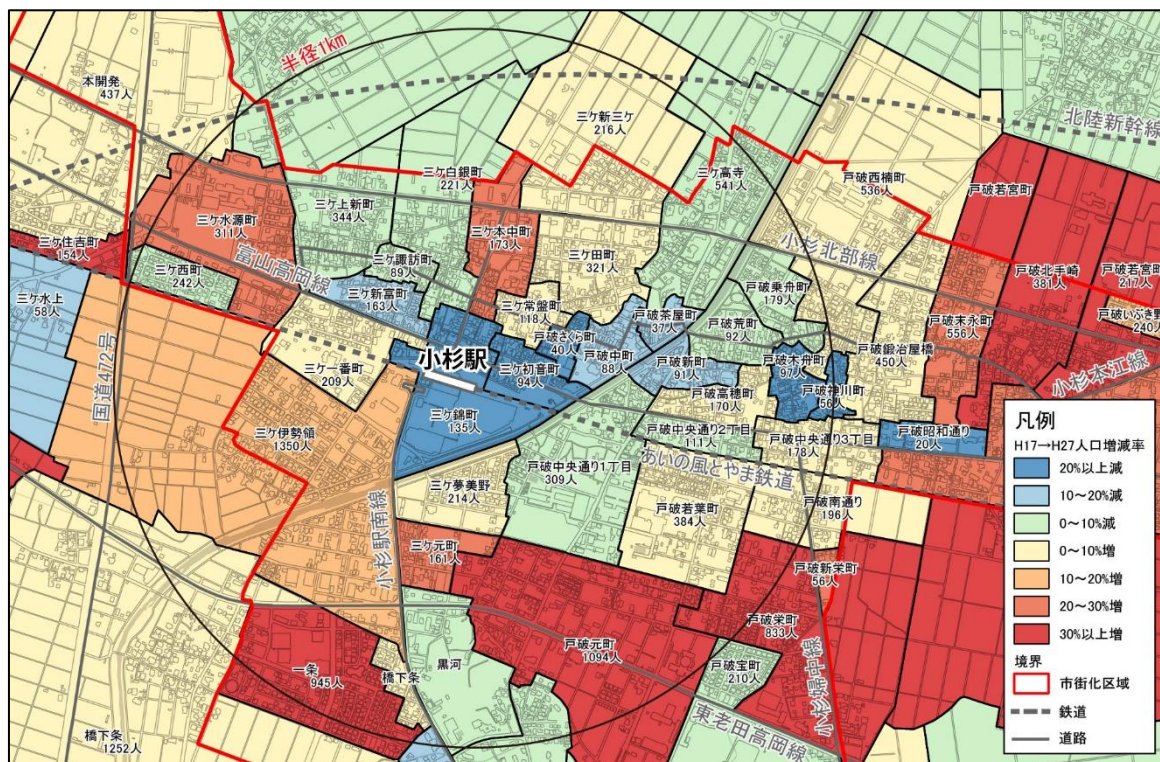
資料:国勢調査

※小地域区分における飛び地は、当該主要地域に含めて集計し、一体の地域として同色で表示している。

⑤ 地区別人口・世帯数の増減

平成 17（2005）年から平成 27（2015）年までの 10 年間の人口及び世帯数の増減をみると、主に駅周辺及び駅北側で減少している。一方で、新しい住宅が形成されている辺縁部において増加している。

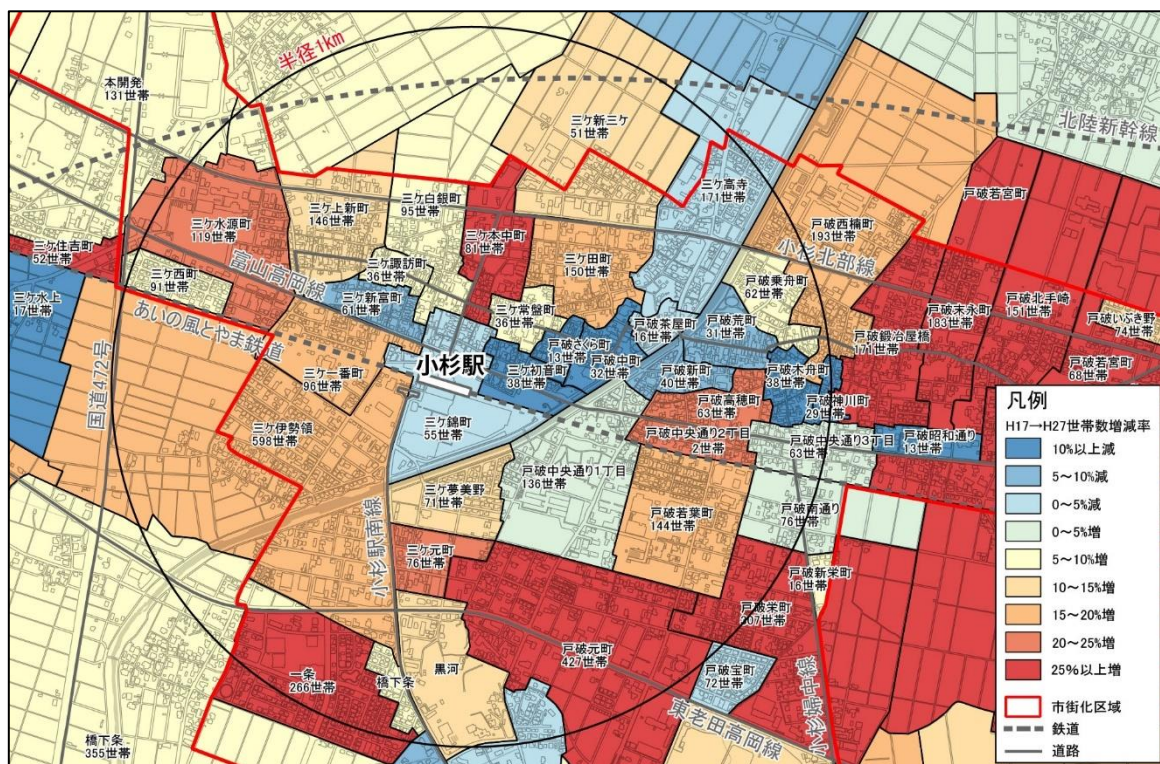
〈小杉駅周辺地区の地区別人口増減(H17～H27)〉



資料:国勢調査

※小地域区分における飛び地は、当該主要地域に含めて集計し、一体の地域として同色で表示している。

〈小杉駅周辺地区の地区別世帯増減(H17～H27)〉



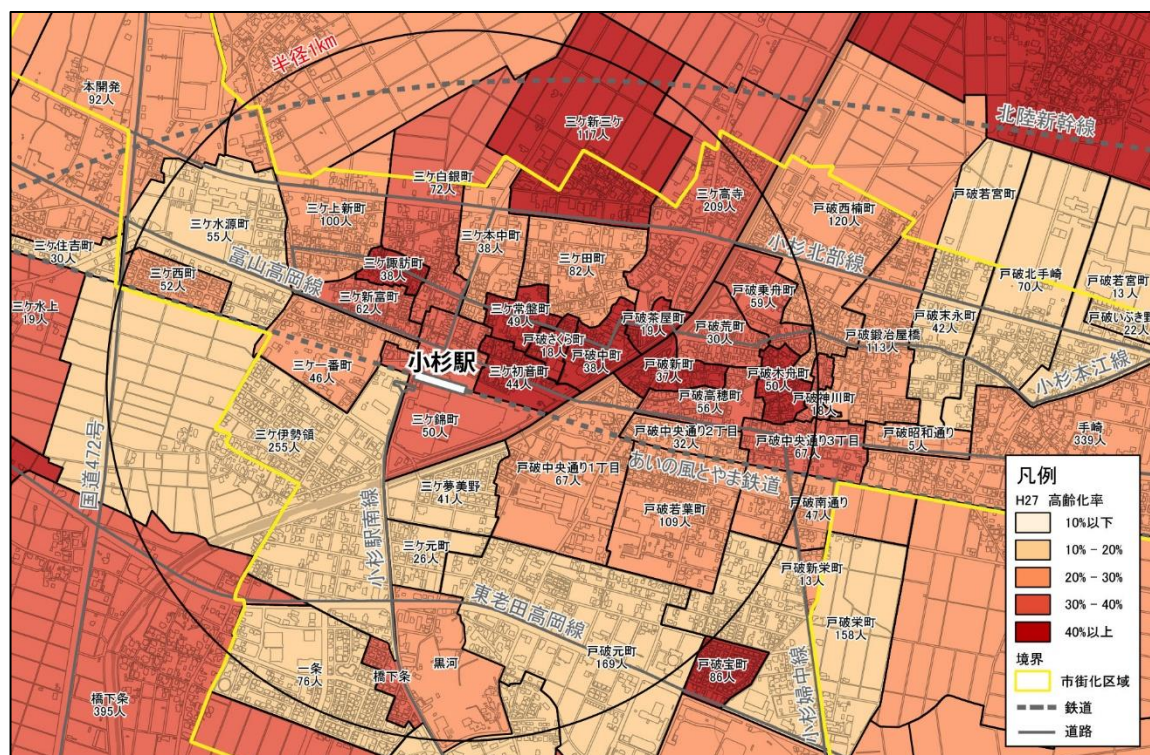
資料:国勢調査

※小地域区分における飛び地は、当該主要地域に含めて集計し、一体の地域として同色で表示している。

⑥ 地区別高齢化率

高齢化率を地区別で見ると、特に駅北側で高いことがわかる。

〈本地区の地区別高齢化率(H27)〉



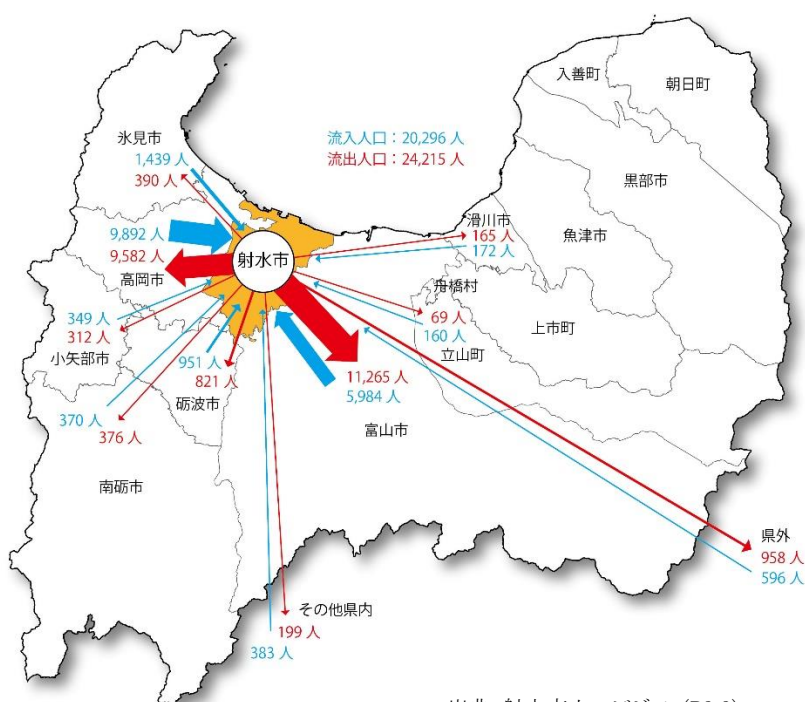
資料:国勢調査

※小地域区分における飛び地は、当該主要地域に含めて集計し、一体の地域として同色で表示している。

⑦ 市全体の流出入人口

本市の通勤・通学者の移動先をみると、富山市、高岡市に大きく依存している。一方、本市への移動元をみると、高岡市、氷見市から比較的多く流入している。

〈射水市の通勤・通学移動(H27)〉



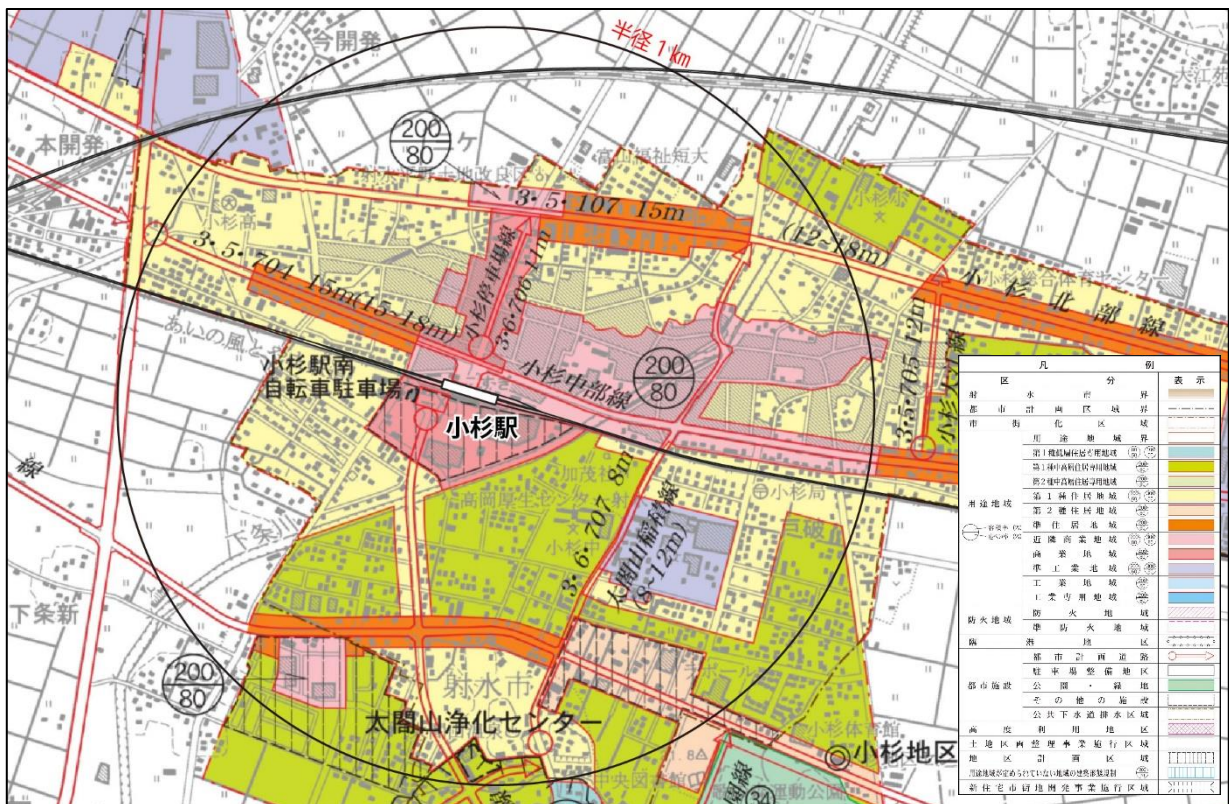
出典:射水市人口ビジョン(R2.3)

(2)土地利用・建物

① 都市計画(地域地区指定)の状況

駅北側では、都市計画道路小杉停車場線沿いは商業地域、主要地方道富山高岡線及び旧北陸道沿いに広がる市街地は近隣商業地域、その他の市街地は住居系の用途地域に指定されている。また、駅南側では、駅前は商業地域、都市計画道路東老田高岡線沿いの一部は近隣商業地域、小杉中学校東側の街区は準工業地域、その他の市街地は住居系の用途地域に指定されている。

〈都市計画の指定状況(R2)〉

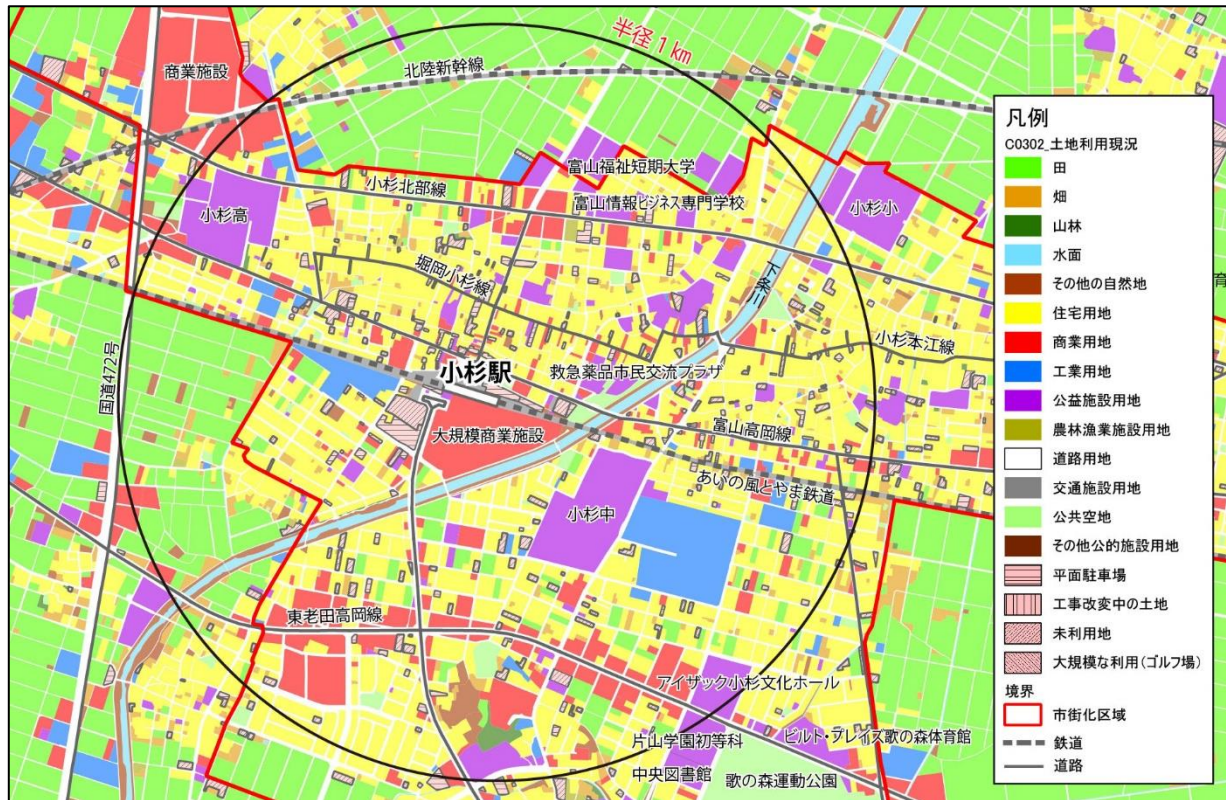


出典:射水市「都市計画総括図」

② 土地利用の状況

駅北側は、主要地方道富山高岡線と都市計画道路小杉北部線沿い及びその中間エリアでは東西に住宅市街地が広がっている。また、幹線道路沿道には商業用地が点在している。駅南側は、駅から太閤山方面に向かって住宅市街地が広がっている。都市計画道路の東老田高岡線沿いにはロードサイド型の商業施設が集積している。

〈土地利用現況図(H30)〉



出典:射水市都市計画基礎調査(H30) (一部加工)

③ 建物建築年数別現況

駅北側には昭和 46(1971)年以前に建築されてから 50 年以上経過した古い建物が多く分布している。一方で駅南側には平成 2(1990)年以降に建てられた比較的新しい建物が多く分布している。

〈建築年数別現況(H30)〉

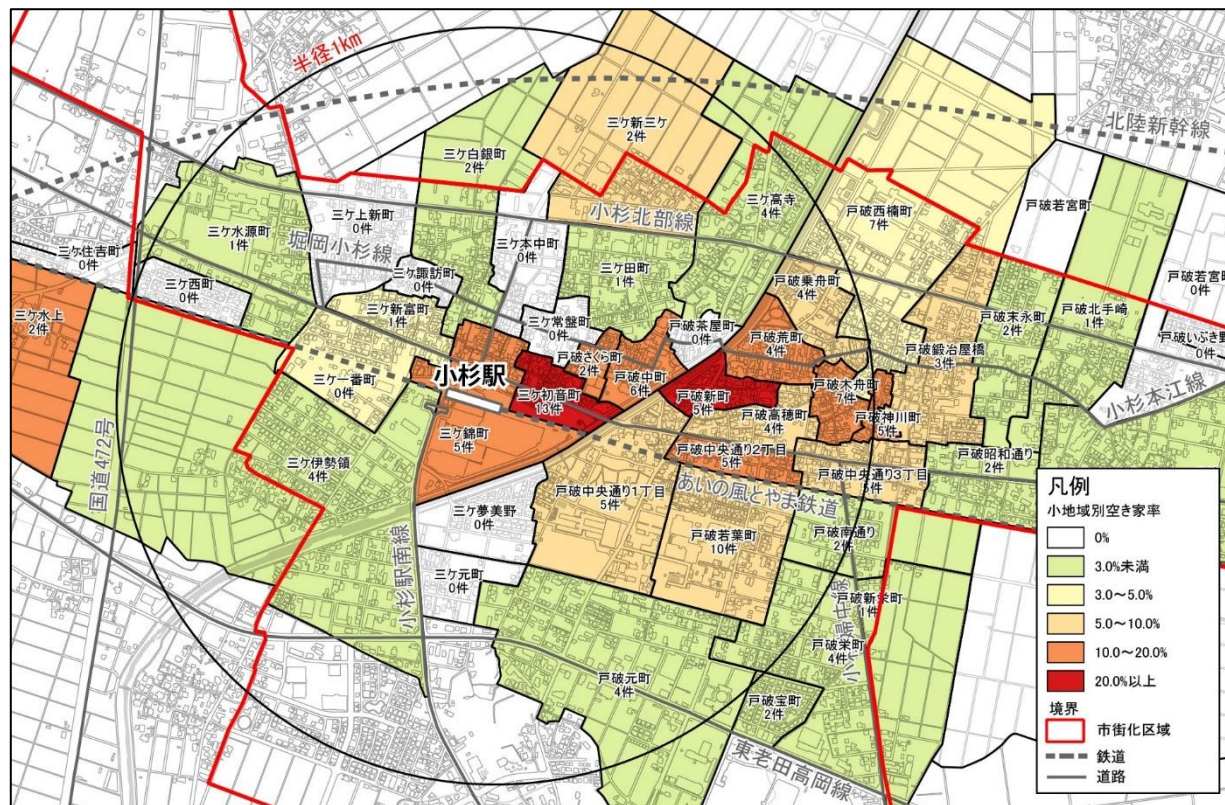


資料:射水市都市計画基礎調査(H30) (一部加工)

④ 空き家の分布

駅周辺地区の平成 28(2016)年度における空き家件数は 138 件である。地区別では、主に駅北側市街地の空き家率が高い。

〈小杉駅周辺地区の空き家の分布(H28)〉



資料:射水市空き家実態調査(H29.3)

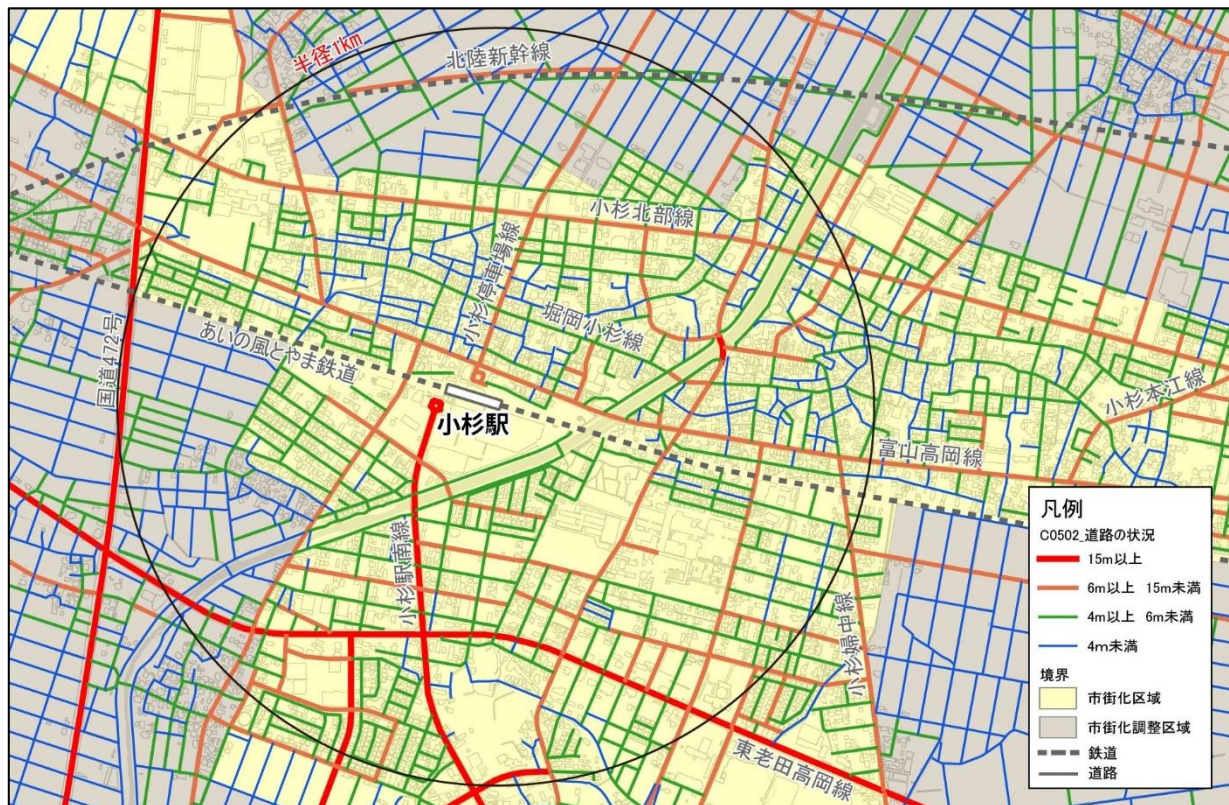
※空き家率は、実態調査で把握している全世帯数に基づく割合。倉庫、店舗数等は含まない。

⑤ 道路整備の状況

駅北側の市街地は、幅員 4m未満の狭隘な道路が多く、また街区形状が不整形で行き止まり道路も散見される等、道路基盤の脆弱性が見られる。一方で、南側の市街地は、幅員 4m以上の道路で整形な街区が形成されている。

南北の市街地間を結ぶ踏切においては、朝夕の混雑時に鉄道の通過により自動車の流れが停滞し、南北交通に支障が生じている。

〈道路整備の状況(H30)〉



出典:射水市都市計画基礎調査(H30) (一部加工)

(3)交通

① 小杉駅(あいの風とやま鉄道)の利用状況

小杉駅における列車の1日当たり運行本数は、県内で最も多い89本(高岡駅～富山駅間)である。

小杉駅の1日当たり利用者数(乗車人員)は、令和元(2019)年度が3,228人であり、平成26(2014)年度から平成30(2018)年度まで年々増加してきたが、令和元(2019)年度は若干減少している。

利用者の約3/4が定期利用で約1/4が定期外利用である。

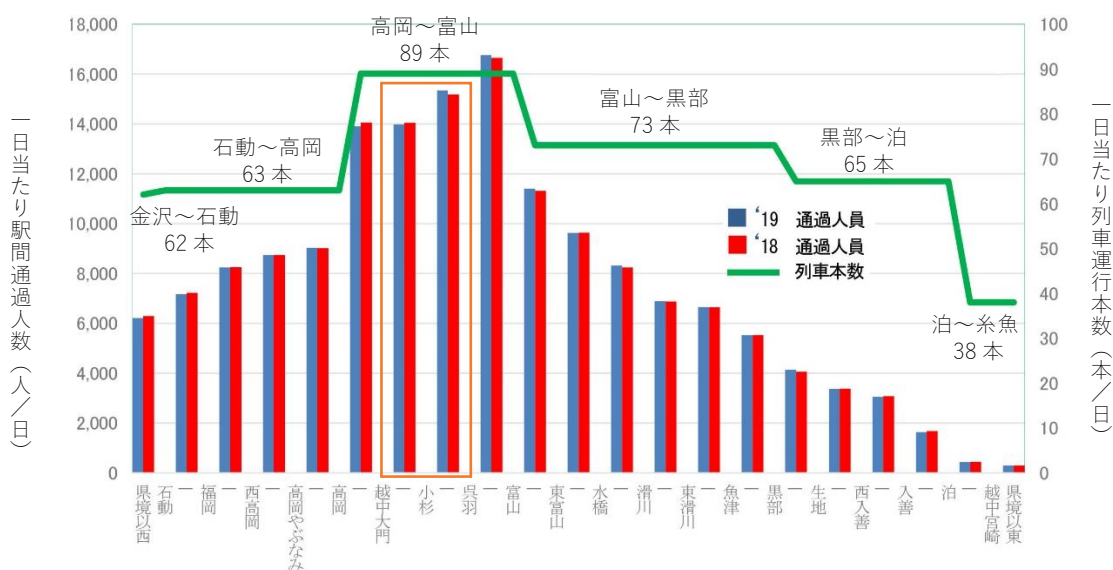
小杉駅を中心に令和元(2019)年度における駅間の通過人数は、小杉～越中大門間で13,977人/日、小杉～呉羽間で15,340人/日である。

〈あいの風とやま鉄道の駅別乗車人数、駅間通過人数、列車運行本数(1日当たり)〉

駅名	乗車人員(人/日)			通過人員(人/日)			列車運行本数(本/日)
	H30(2018)年度	R1(2019)年度	増減	H30(2018)年度	R1(2019)年度	増減	R1(2019)年度
高岡	6,522	6,441	△81				89
				14,058	13,905	△153	
越中大門	1,017	1,031	14				
				14,044	13,977	△67	
小杉	3,251	3,228	△23				
				15,180	15,340	160	
呉羽	1,686	1,676	△10				
				16,647	16,765	118	
富山	12,270	12,271	1				

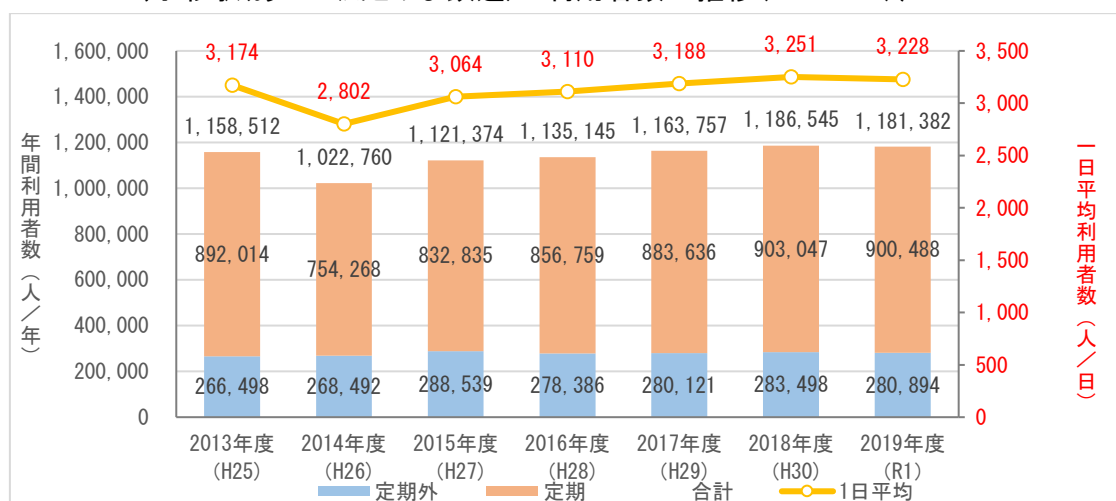
出典:令和元年度 あいの風とやま鉄道 利用状況等(あいの風とやま鉄道株/令和2年6月)

〈あいの風とやま鉄道の運行本数(本)と駅間通過人数(人/日)(R1)〉



出典:令和元年度 あいの風とやま鉄道 利用状況等(あいの風とやま鉄道株/令和2年6月) (一部加工)

〈小杉駅(あいの風とやま鉄道)の利用者数の推移(H25～R1)〉



資料:射水市統計書

② 路線バスの運行状況

小杉駅(又は小杉)を経由する路線バスは、富山地方鉄道(株)が運行する6路線である。

〈小杉駅(又は小杉)を発着又は経由する路線バスの運行本数(1日当たり)(R2)〉

路線名	ルート	行先(往路)	運行本数 (平日・往路)	備考
高岡線	富山駅前～小杉駅～高岡駅前	高岡駅前行	18	
		富山駅前行	22	
小杉線	小杉駅前～富山駅前	富山駅前行	10	
小杉～富山短期大学線	小杉駅前～富山短期大学	富山短期大学行	2	学休日運休
国際大学附属高校線 [高岡ルート]	新高岡駅～小杉駅前～国際大附属高校	新高岡駅行	3	
		国際大附属高校行	1	学休日運休
小杉～新湊線	小杉駅前～新湊車庫前	新湊車庫前行	1	
小杉経由新湊線	富山駅前～小杉駅前～新湊車庫前	富山駅前行	4	
		新湊車庫前行	5	

資料:富山地方鉄道株 路線バス時刻表(R2年4月1日改正版)

③ コミュニティバスの運行状況

小杉駅を経由するコミュニティバスは 12 路線あり、1 日に最大時で往路 88 本・復路 96 本運行しており、路線全体の利用者数は平成 30(2018)年度まで増加していたが令和元(2019)年に若干減少している。

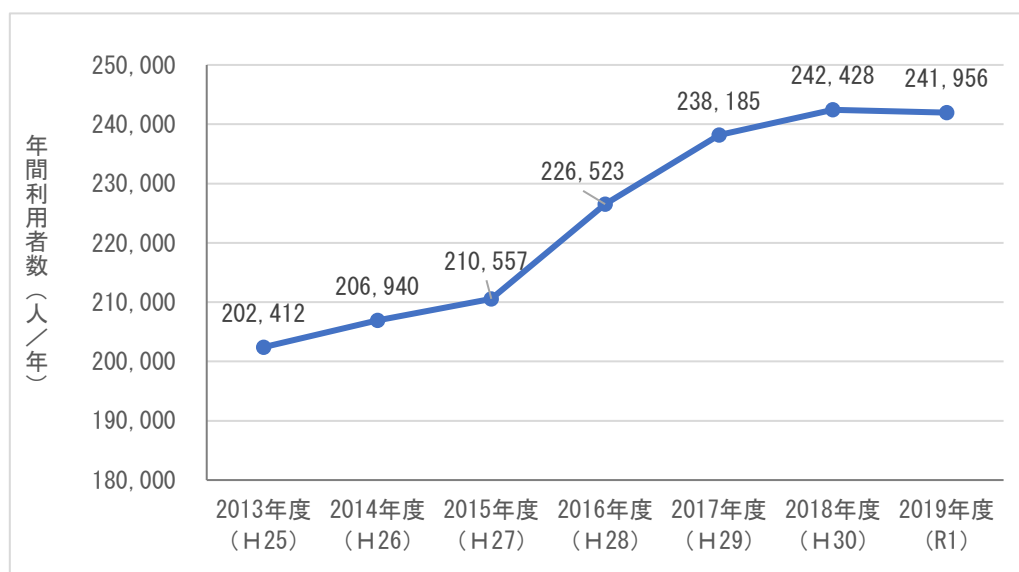
令和元(2019)年の利用状況を路線別にみると、新湊・小杉線が 70,186 人／年（1 日当たり 191.8 人／日）で最も多く、次いで小杉駅・太閤山線の 55,142 人／年（150.7 人／日）となっている。

〈小杉駅を発着又は経由するコミュニティバスの運行本数と利用者数(R1)〉

路線名	小杉駅停留所	方面別運行本数		2019 年度 (R1)		備 考
		往路	復路	年間利用者数	1 日当たり	
中央幹線	小杉駅南口	22	22	27,020	110.7	平日のみ運行
新湊・小杉線	小杉駅南口 小杉駅前（北口）	12	13	70,186	191.8	土日祝日運休便を含む
大島・小杉経由大門線	小杉駅南口	1	2	389	6.7	12 月～2 月の平日のみ運行
浅井・大門経由小杉駅線	小杉駅南口	2	2	3,300	56.9	12 月～2 月の平日のみ運行
櫛田・大門経由小杉駅線	小杉駅南口	1	2	805	13.9	12 月～2 月の平日のみ運行
小杉駅・水戸田経由大門線	小杉駅南口	1	2	346	6.0	12 月～2 月の平日のみ運行
小杉駅・金山線	小杉駅南口	3	4	12,299	33.6	土日祝日運休便、12 月～2 月のみ運行便を含む
小杉地区循環線	小杉駅南口	6	7	25,053	68.5	土日祝日運休便、12 月～2 月のみ運行便を含む
小杉駅・太閤山線	小杉駅南口	22	25	55,142	150.7	土日祝日運休便、12 月～2 月のみ運行便を含む
小杉駅・白石経由洗足線	小杉駅南口 小杉駅前（北口）	5	4	12,954	35.4	土日祝日運休便、12 月～2 月のみ運行便を含む
小杉駅・大江経由洗足線	小杉駅南口 小杉駅前（北口）	5	5	13,059	35.7	土日祝日運休便、12 月～2 月のみ運行便を含む
堀岡・片口経由小杉駅線	小杉駅南口 小杉駅前（北口）	8	8	21,403	58.5	土日祝日運休便、12 月～2 月のみ運行便を含む
合計		88	96	241,956		

資料:射水市統計書

〈小杉駅経由のコミュニティバス 12 路線全体の利用者数の推移(H25～R1)〉



資料:射水市統計書

(4)小杉駅及び付近の土地利用、主要施設

① 駅舎(改札口)

駅北口・南口にそれぞれ駅舎があり、改札口・待合室が設置されている。

② 南北連絡自由通路(地下道)

駅舎付近に北口・南口を結ぶ、歩行者・自転車用の地下道が設置されている。

③ 公共駐車場・駐輪場

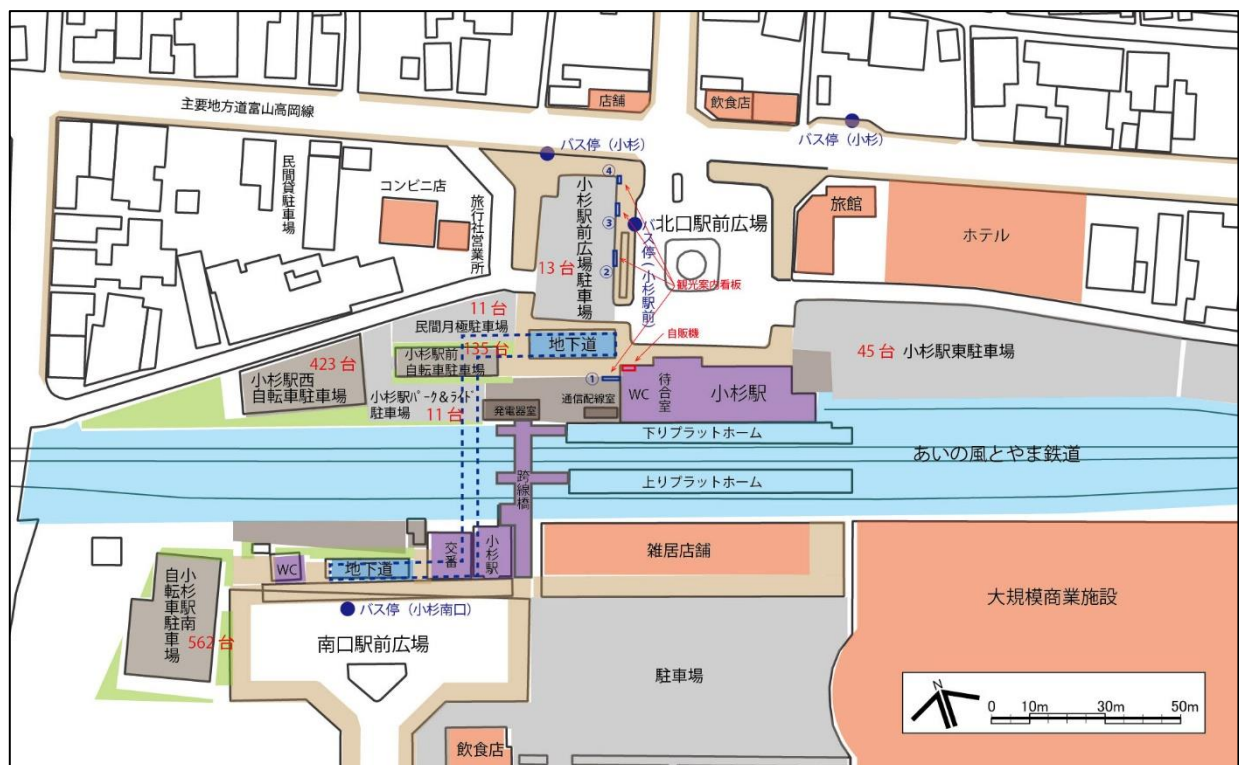
駅北口には市営の無料(2 時間)駐車場及び有料(月極)駐車場が市有地に確保されている。また、小杉駅での JR 長距離切符購入者のための無料パーク&ライド駐車場があいの風とやま鉄道敷地内に設置されており、市が運営している。

市営の駐輪場は駅北口及び南口それぞれに整備されている。

④ バス停

駅のバス停は、北口では駅前広場内に「小杉駅前」、広場外に「小杉」が設置されている。南口では駅前広場内に「小杉南口」が設置されている。

〈小杉駅及び付近の土地利用、主要施設〉



〈小杉駅周辺の駐車場及び駐輪場〉

	場所	運営	形態	収容台数	利用率	備考
小杉駅前広場駐車場	駅北口	射水市	2 時間以内	13 台	—	
小杉駅東駐車場	駅北口	射水市	月極	45 台	100%	
小杉駅パーク＆ライド駐車場	駅北口	射水市	無料	11 台	100%	小杉駅での JR 長距離切符購入者限定

資料:射水市地域公共交通網形成計画

〈小杉駅周辺の駐輪場〉

	場所	運営	収容台数	利用率	備考
小杉駅前自転車駐車場	駅北口	射水市	135 台	ほぼ 100%	
小杉駅前西自転車駐車場	駅北口	射水市	423 台	約 25%	
小杉駅南自転車駐車場	駅南口	射水市	562 台	約 80%	

資料:射水市地域公共交通網形成計画

2 市民等の意向

(1)住民ワークショップ(三ヶ、戸破地区)

小杉駅沿線の戸破地区、三ヶ地区の住民を対象に、本地区の現状や課題、将来に向けた意向等を把握することを目的に実施。戸破地区は令和2年8月28日、三ヶ地区は令和2年8月29日に開催し、各地区より、地域振興会役員、町内会長、若手世代の代表者等（戸破地区41名、三ヶ地区26名）が参加。

〈会議方式〉

4つのテーマを設定し、各グループに分かれて、1グループ1テーマについてグループ討議を行うワークショップ形式

- 1 小杉駅を中心とした都市機能の集積とにぎわいの形成
- 2 安全性、利便性の高い居住環境の維持・充実
- 3 道路・公共交通ネットワークの強化
- 4 地域の豊かな歴史・文化、自然環境の保全と活用

【主な意見(抜粋)】

	現況・課題	将来の方向（将来像）
小杉駅の魅力づくり	○売店や待ち時間を快適に過ごす場所（カフェ等）がない ○乗継案内のサインが不足している ○南北の往来が不便	○駅の複合化 売店 カフェ 待合スペース 勉強スペース Wi-Fi 観光案内 イベントスペース 図書館機能等
まちのにぎわいづくり	○閉鎖店舗が増加し商店街が衰退、魅力を喪失している ○学生がまちを歩いていない ○学生が魅力を感じる施設がない ○学生の居場所がない ○学生をまちへ取り込めてない	○学生の居場所・活動の場、市民と学生の交流の場の整備 ○ワーキングスペースの整備 サテライトオフィス、コワーキングスペース等整備 (空き家・空き地の活用)
空き家・空き地の活用	○空き家・空き地、高齢単身世帯が増加し環境の悪化が懸念される ○空き家・空き店舗の活用促進が課題（具体的活用方法、不動産の流動化促進策、新たな出店の方策等） ○アパート等が増加し、新旧住民のコミュニケーションが希薄化	○空き家活用 リフォーム後に賃貸促進、 高齢者・子育て家族等の居場所、 芸術・工芸等の体験工房、移住体験施設、 シェアハウス、サテライトオフィス等 ○空き地活用 駐車場整備、土地区画整理事業の実施

	現況・課題	将来の方向（将来像）
公共交通利便の向上	○ハブ拠点・乗継拠点にふさわしいバス運行になっていない （迂回が多いため目的地まで時間を要し不便） ⇒運行系統の再検討等、利便性向上が課題 ○駅周辺がバリアフリーになっていない ○駅構内に2次交通乗換えの案内表示及び外国語表記の標識・案内板が少ない	○橋上駅舎化、自由通路整備 ○コミュニティバスの運行改善 ・運行系統を回遊型から往復型へ（小杉駅のハブ機能強化） ・バス停以外の場所で乗降を可能にする ○デマンドタクシーの拡充 ○パーク＆ライド駐車場整備 ○歩行動線のバリアフリー化 ○乗換案内等の表示
道路交通の強化	○生活道路が狭隘 ・歩行者の安全性にも危惧 ○南北市街地の往来が不便 ・踏切での渋滞 ・地下連絡通路が暗くて快適でない	○安全・快適な歩行空間整備 ・歩道の設置、自転車レーン設置等 ・地下連絡通路の改善 ○生活道路の拡幅 ・側溝の有蓋化による拡幅 ○鉄道横断南北道路の整備 ・踏切の改善、立体交差化の検討等
旧北陸道の活性化	○歴史・文化の風情が失われつつある ・旧北陸道の歴史的風情・佇まいを感じない。統一感がない。立ち寄れる店舗が少ない ○歴史文化への関心度が低い。PR不足の問題等 ・旧北陸道の歴史文化を地元の人知らない	○歴史・文化資源の情報提供とPR ・AR（拡張現実）技術を活用した資源マップの作成等 ・ボランティアガイドの活用等 ○モノよりコトを楽しませる ・小杉焼、鰻絵、木象嵌等の体験工房の整備等
下条川を活かした魅力づくり	○下条川的环境・景観 ・水質浄化等、美化を図る ○下条川の維持・管理 ・保全と維持管理が重要	○下条川的环境・景観改善 ・桜並木の拡張、水質浄化、四季の花植え等 ○下条川を中心とする歩行者ネットワークの整備 ・散策路、休憩施設、照明灯の整備 ○下条川の観光 ・下条川の水辺遊覧観光（小杉～新湊内川まで遊覧船運行）

(2)市内高等教育機関アンケート調査

【アンケート調査の概要】

① 調査対象

射水市内 4 つの高等教育機関の学生及び教員

高等教育機関名	学生配布数	教員配布数
富山県立大学	工学部 1,445 名 大学院 191 名 看護学部 243 名	146 名
富山高等専門学校（射水キャンパス）	295 名	58 名
富山福祉短期大学	417 名	37 名
富山情報ビジネス専門学校	361 名	18 名
合 計	2,952 名	259 名

② 調査方法

WEB アンケート

③ 実施期間

令和 2 年 8 月 17 日（月）～8 月 28 日（金）

④ 回答数

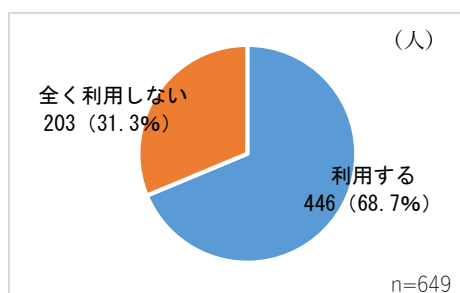
	配布数	回答数（回答率）
学生アンケート	2,952 名	649 名（21.9%）
教員アンケート	259 名	106 名（40.9%）

【主な設問と回答の抜粋】

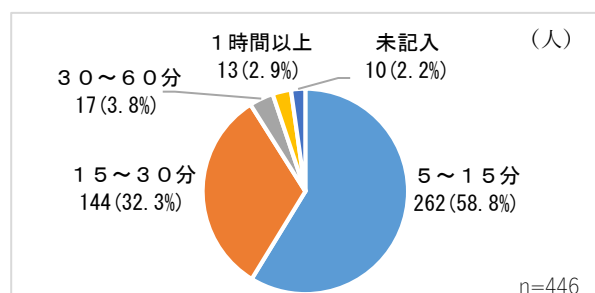
① 小杉駅の利用状況について

小杉駅を利用する学生は約 7 割でそのうち、滞留時間が 5～15 分である割合が約 6 割、30 分以内の割合が約 9 割という結果から、学生のほとんどが交通機能のみの利用であることがわかる。

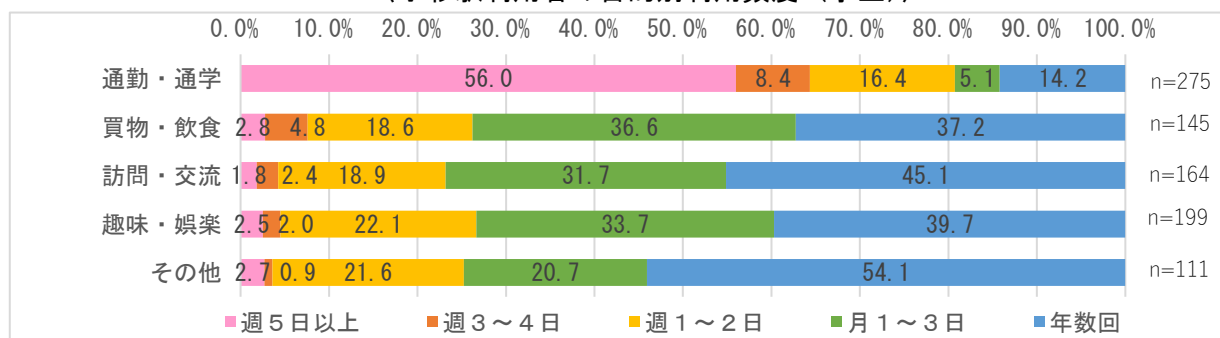
〈小杉駅の利用の有無（学生）〉



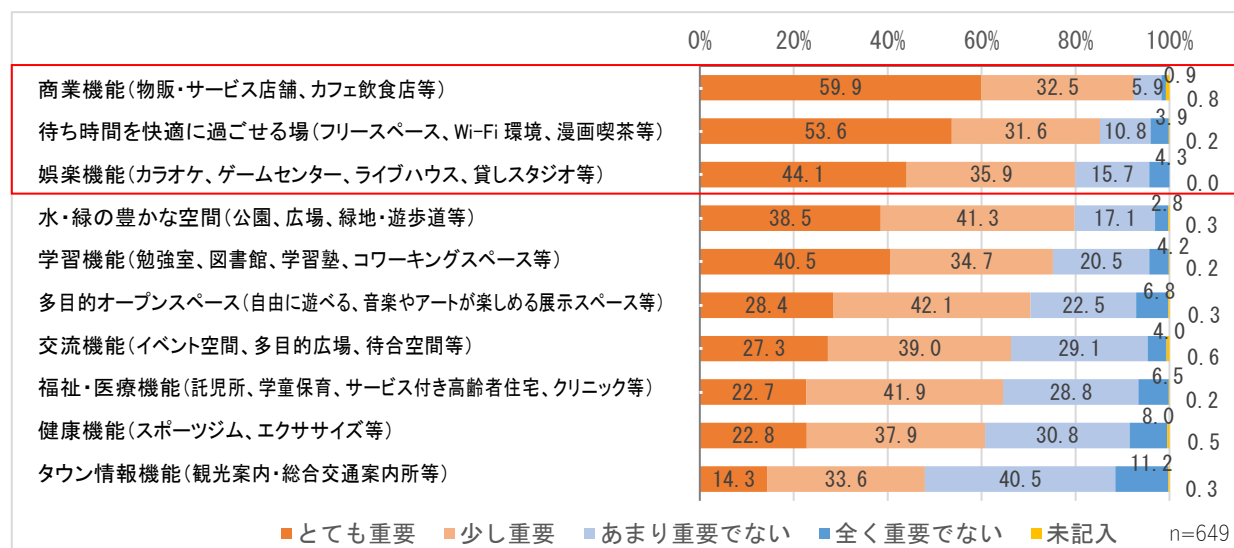
〈小杉駅での滞留時間（学生）〉



〈小杉駅利用者の目的別利用頻度（学生）〉

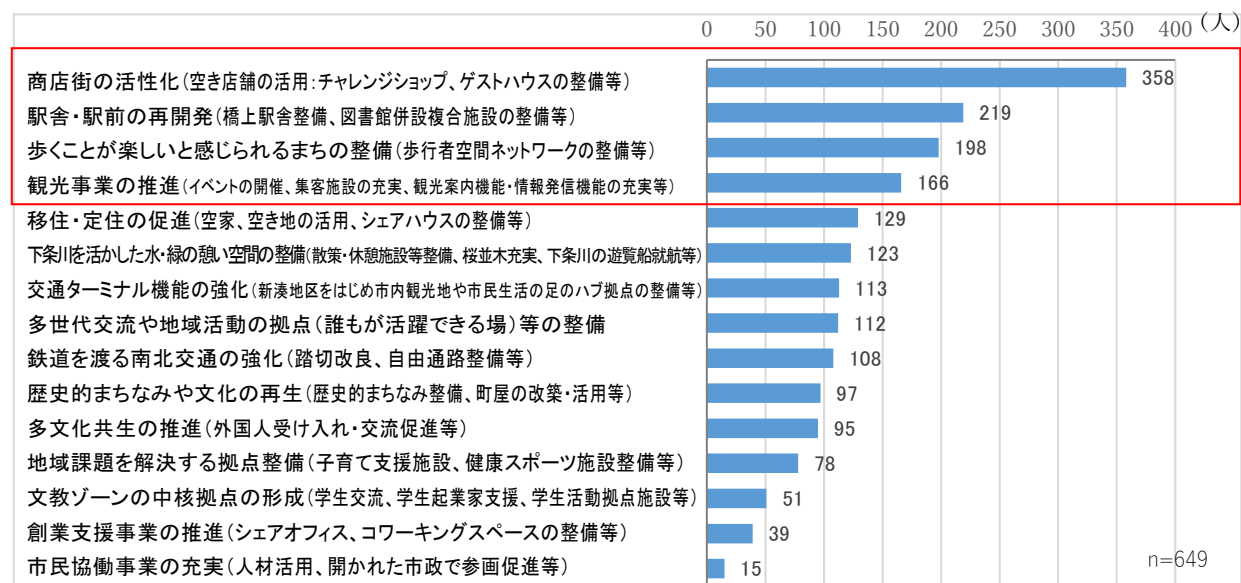


② 小杉駅周辺地区に足りないと思うものや欲しいもの(学生)



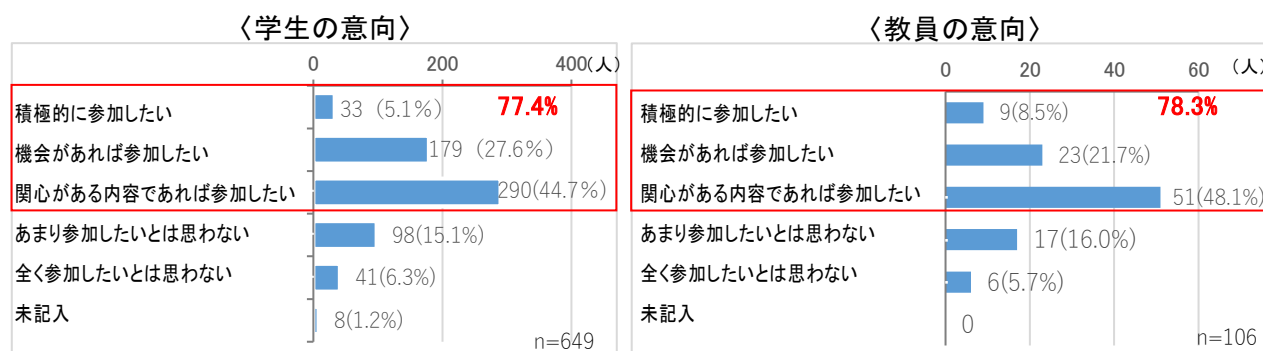
③ 小杉駅及び周辺地区の今後のまちづくりにおいて重要な取組(学生)

「商店街の活性化」、「駅舎・駅前の再開発」、「歩くことが楽しいと感じられるまちの整備」等が多く挙げられている。



④ 射水市のまちづくりへの参加意向(学生、教員)

まちづくりへの参加意向の割合は、77.4% (学生)、78.3% (教員) と高い。



(3)小杉駅活性化に関する提言

小杉まちづくり協議会において「小杉駅活性化に関する提言」(令和元年12月18日／小杉まちづくり協議会・小杉駅活性化プロジェクトチーム)が取りまとめられており、その概要は以下のとおりである。

① 小杉駅整備にあたっての基本的考え方

- ・小杉駅の南北一体化(橋上化)を前提とする。
- ・学園未来都市射水のシンボルとし、若者がまちに誇りや夢を持てる駅とする。
- ・射水市の強み(大学や研究期間が小杉駅近隣に集積、富山駅から10分かつ県の中心に位置する立地環境、子育て環境をはじめとした住環境の良さ)を最大限活かした駅とする。
- ・施設整備に係る財政負担が将来の重荷とならないように市の公共施設をできる限り小杉駅に集約することを念頭におく。

② 小杉駅整備の具体的な展開アイデア

ア)研究・学習施設を併設し、学園都市の中核拠点とする

- ・創業支援(学生ベンチャー等)のためのインキュベーション施設の整備
- ・カフェ併設の新図書館整備(市内既存図書館の集約整備)

イ)子育て支援や健康寿命延伸等、地域課題を解決する拠点とする

- ・送迎保育ステーション(子育て支援施設)の整備
- ・健康寿命延伸(高齢者・サラリーマン世代)に向け、スポーツジムを含むスポーツ施設の整備
- ・小杉地区センター(現時点では公共施設再編方針の対象外)の機能を小杉駅に集約し、住民サービスほか観光案内等も行う複合行政拠点を整備

ウ)射水市の玄関口として公共交通や賑わいの中核拠点とする

- ・小杉～新湊間の水上交通の確立(下条川の遊覧等)
- ・公共交通ターミナル整備(新湊地区をはじめ市内観光地や市民生活の足の拠点とする)
- ・シェアサイクルやシェアバイクの拠点の整備
- ・小杉駅周辺に射水市の食の魅力を味わせる飲食店街を誘致(射水の食の魅力をアンテナショップ的に発信)

〈小杉駅の将来イメージ〉



出典:「小杉駅活性化に関する提言書」(小杉まちづくり協議会／令和元年12月)

3 本地区の特性と課題

住民意見交換会での意見や高等教育機関へのアンケート調査結果等から、小杉駅周辺地区の「強み」「弱み」を以下のように整理する。

(1)本地区の特徴

① 小杉駅周辺地区の強み

○交通の利便性

- ・小杉駅は、県内主要駅である富山駅と高岡駅の間に位置し、列車運行本数は富山駅から高岡駅間で89本と県内で最も多く、両駅への所要時間も10分程度であり、県内外への移動拠点として利便性が非常に高い。

○高等教育機関の集積と地理的特性

- ・小杉駅を最寄り駅とする高等教育機関が集積（富山県立大学、富山福祉短期大学、富山情報ビジネス専門学校）しており、多くの学生が居住・通学している。
- ・本地区の近隣に研究機関や企業団地、市役所本庁舎等の都市機能が集積している。

○歴史・伝統文化と景観

- ・旧北陸道の宿場町として発展した歴史的背景があり、小杉焼、鋳絵等の伝統工芸や文化等が受け継がれている。
- ・下条川の兩岸に約2.7kmにわたり桜並木が整備されており、開花時期には美しく彩られ、桜の散策路として市民に愛されている。

○生活利便性の高い居住環境

- ・駅を中心として日常生活に便利な住環境が備わっており、利便性の高い居住地としてポテンシャルが高く、人口も増加傾向にある。

○まちづくりの住民組織・熱意

- ・小杉駅周辺のまちづくりを推進するため、三ヶ・戸破地域住民を中心に小杉まちづくり協議会が組織され、「小杉駅活性化に関する提言」をはじめ、様々なまちづくり活動が主体的に行われており、市民協働のまちづくりを実践している。

○学生(大学)のまちづくりへの参加意欲

- ・学生アンケートでも示されたとおり、学生のまちづくりへの参加意欲が高い。学生（高等教育機関等）の持つアイデアや知見・技術を活かしたまちづくりへの参加が期待される。

② 小杉駅周辺地区の弱み

○空き店舗・空き家の増加

- ・ 駅北側の市街地や商店街では、空き家・空き店舗が目立つようになっているが、実態が十分に把握できていない。また、利活用をしていくための制度や仕組み等も十分に整っていないことから、空き家・空き店舗の不動産としての流動化が進まず、空き家・空き店舗が増加傾向にある。

○駅南北往来

- ・ 駅を中心とする南北の往来は、駅の地下道や踏切道の通行に限られている一方で、地下道は劣化が進み、踏切道は幅員が狭く歩道も設置されていないため、利用しにくい状況にあり、駅を中心に一体的なにぎわい形成が図られていない。

○都市基盤の脆弱性

- ・ 駅北側の市街地は、道路・街区が十分に整っていないエリアが多く、老朽化した建物や、空き家も発生している。道路等の基盤が整っていないため空き地、空き家の活用も難しく、一部で市街地環境の衰退が進行しつつある。

○歴史・伝統文化の継承

- ・ 旧北陸道を中心とした歴史的資源や伝統文化が豊富にあり、それらを活かした祭りやイベントが開催されているが、地域住民、特に若い世代がその価値や魅力を十分に理解していない。

○学生(若者)のニーズの取り込み

- ・ 昼間人口として多くの学生が滞在しているが、学生のニーズにマッチした魅力的な商業・娯楽機能・交流機能等が少ないため、まちなかへの学生の立ち寄りや滞在がほとんどなく、学生の存在がまちのにぎわい形成に活かされていない。

(2)本地区のまちづくりの課題

前項で整理した本地区の「強み」や「弱み」を踏まえた上で、小杉駅周辺地区のまちづくりを進めるためには次の課題が挙げられる。

① 小杉駅の交通利便性を活かした都市機能集積とにぎわいの形成

射水市都市計画マスタープランでは、小杉駅周辺地区は「都市中核拠点」の一つとして都市機能の充実を図ることが期待されており、駅のアクセス性・集客力を活かして、多様な都市機能の集積を誘導し、駅を中心としたまちの価値や魅力を高める必要がある。

② 生活利便性を活かした居住環境の維持・充実

今後予想される人口減少を見据え、生活利便性の高い居住地としてのポテンシャルを活かして居住人口の増加を図り、多様な人の受け入れによる交流促進等、地域活力やコミュニティの維持・充実を図る必要がある。

③ 公共交通の結節点としてのネットワーク強化

小杉駅は本市の地理的中心に位置し、鉄道やコミュニティバス等、公共交通の結節点としての役割を担っており、駅と周辺地域を結ぶ交通ネットワークの充実と乗り継ぎの利便性向上を図る必要がある。

④ 地域の歴史・文化・自然環境の保全と継承

地域の歴史的・文化的資源をより多くの住民が認識・継承するとともに、それらの魅力を活かしたまちなみ形成を図ることで、住民が地域に誇りを持ち、定住意識を高めていく必要がある。

⑤ 学生の参加によるにぎわい形成と新たな価値の創造

周辺の高等学校及び高等教育機関にまちづくりへの参画を促し、公（公共、NPO 団体等）・民（地域、事業者等）・学（教育機関、研究機関等）で連携・協働によるまちづくり活動を推進することで、地域課題の解決を図るとともに、新たなまちづくりの連携体制を構築していく必要がある。

第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針

1 まちづくりの将来像

(みんなで)

地域で描く 人が集い 学びと文化を育む いみずのエントランスエリア

- 駅の利便性・集客力を活かして、多様な都市機能の立地を誘導し、本市のエントランスエリアとしての価値や魅力を高める。
- ※地学連携を推進し、それぞれの機関や学生・教員・研究者と地域とをつなぎ、協働によるまちづくりを行うことで地域活性化を図る。
※地学連携：地域と高等学校・高等教育機関や学術研究機関の連携を表す造語
- 産業集積地域や住宅地、観光地へのアクセスを向上させ、利便性の高い交通ネットワークの形成を図る。
- 地域住民が主体となり、歴史を継承するとともに文化を育むまちづくりを推進し、活力あふれる地域をつくる。
- 世代、文化等、それぞれの垣根を超えて互いに尊重し合える地域をつくる。

2 まちづくり方針

1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成	(1) アクセス性・集客力を活かした市民交流機能・都市機能の充実 (2) 子育てしやすいステーションエリアの創造 (3) 文教ゾーンとしてのにぎわいの創出
2 安全・快適で住み続けたい市街地環境の整備	(1) 空き地・空き家のリノベーションによる多様な活用 (2) 安全・快適な住環境の整備 (3) 多様性のある地域社会の形成
3 まち・ひと・ものをつなぐシームレスな交通ネットワークの形成	(1) 交通ターミナルの整備とネットワークの強化 (2) 鉄道を横断する南北交通の整備
4 歴史・文化・自然を継承するまち・ひとづくり	(1) 歴史・文化の継承とまちなみの形成 (2) 下条川の親水環境・景観の充実
5 「知」の拠点とともに創る次世代のまちづくり	(1) 学生が主体的に関わる交流・活動の場の創出 (2) 「知」のプラットフォームとしての拠点の創出

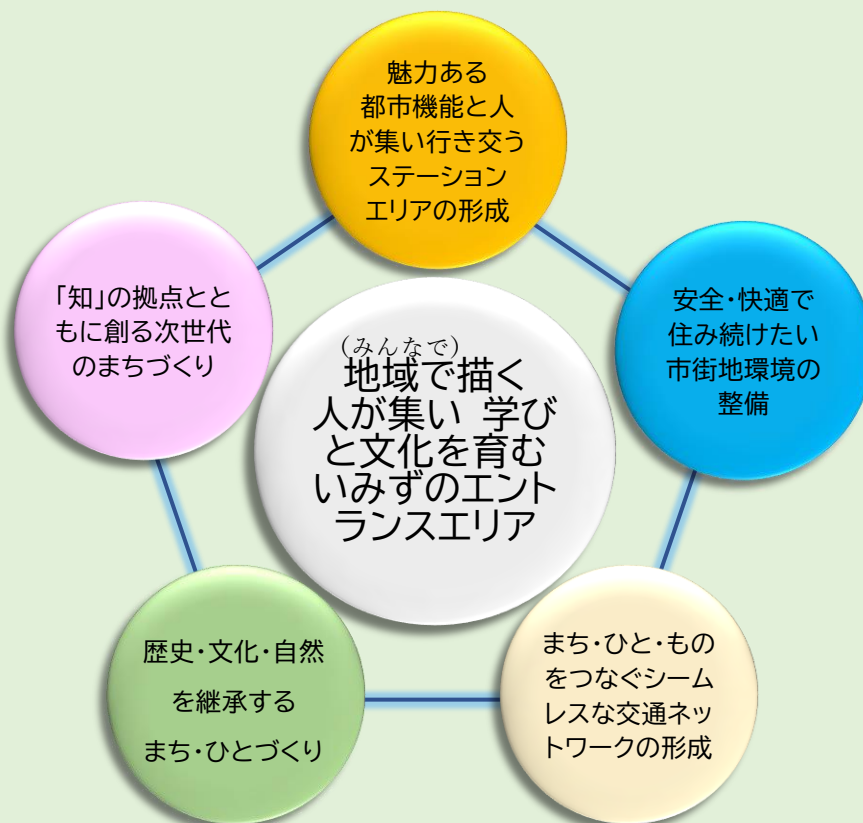
第2次射水市総合計画基本理念
「豊かな自然 あふれる笑顔 みんなで創る きららか射水」

射水市都市計画マスタープランまちづくりの方針
「居住・産業・レクリエーションと自然が調和する 暮らしやすさと活力に満ちたまち」

都市中核拠点(小杉駅及び本庁舎周辺)

居住や交流の中心地として、多様な都市機能の立地誘導を推進し、人口の集積を維持しながら、都市生活の利便性や快適性を向上させ、にぎわいを創出する拠点。公共交通ターミナル機能等の都市の中核機能の集積を図り、各拠点同士の連携や相互活性化を促進。

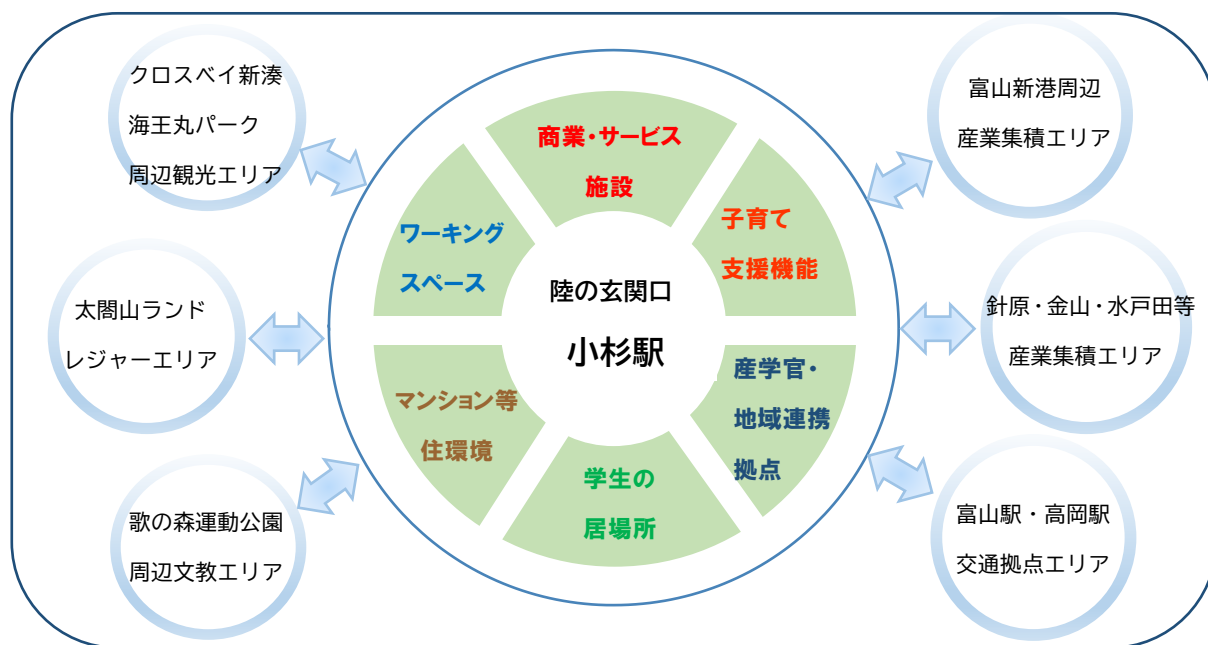
■小杉駅周辺地区の将来像(基本コンセプト)



小杉駅周辺地区は射水市都市計画マスタープランで都市中核拠点として位置づけられており、交通ネットワークを活かしたあらゆるものの結節点である。また、周辺には高等教育機関や研究機関等が集積しているほか、旧北陸道の宿場町として発展した歴史や伝統文化が継承されている。これらの地域資源を活かし、地域住民や、事業者、各種団体、行政等との協働によるまちづくりを行うことで、本市のエントランスエリアとしてにぎわいを創出して地域活性化を目指す。

1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成

都市中核拠点である小杉駅周辺地区は、本市の陸の玄関口として、集中的・戦略的に都市拠点機能を集積し、駅を中心にエリアの多機能複合化を図る。このことにより、都市としての価値や魅力を高め、人が集い、行き交い、にぎわいを創出するステーションエリアの形成を目指す。



(1) アクセス性、集客力を活かした市民交流機能・都市機能の充実

駅が持つ広域アクセスの利便性や集客力を活かし、駅及び周辺に、子育てや学習支援、学生と地域との交流機能の充実を図るとともに、新たなワークスタイルに対応したスペースや商業・サービス施設の立地誘導等により、人が集う空間を形成し、市民交流機能及び都市機能の充実を図る。また、観光エリア、文教エリア、産業集積エリアへつなぐ陸の玄関口としての機能の充実も図っていく。これらのことにより、駅の広場や待合空間等を活用して、にぎわいを創出するイベント等を行いながら交流人口の増加を図る等、活気あふれるエントランスエリアの形成を目指す。

(主な取組の一例)

市民や駅利用者のニーズに合わせた空間の整備

- ・ 駅の多機能複合化
- ・ 地域の交流スペースの整備
- ・ 学習や仕事等、多用途で利用できるスペースの整備
- ・ 交通ターミナルの整備（駐車場、公共交通乗降場等）

駅周辺の魅力発信とにぎわいの形成

- ・ 駅周辺への商業・サービス施設等の立地誘導
- ・ 救急薬品市民交流プラザ等の既存施設の活用
- ・ 商店街の活性化
 - ・ 駅から駅周辺へのまちなみへの動線確保
 - ・ 空き家や空き店舗を活用した事業者支援

【イメージ例】

■美川 37Cafe（石川県白山市）

- ・美川 37Cafe は J R 美川駅構内にある既設の待合所を改修し、コミュニティスペースを設けた障がい者の就労支援施設である。
- ・駅の利用者が気軽に立ち寄れ、地域の食文化やアーティストの作品との出会いを得られる場所であり、単に飲食の場所ではなく、社会に開かれた文化を育む場として機能することを目指している。



JR 美川駅



カフェテラス・カフェダイニング



ギャラリー



出典: 美川 37Cafe ホームページ

■大津駅（滋賀県大津市）

- ・琵琶湖、彦根城、延暦寺等の観光名所につながる結節点として駅にレストラン、簡易宿泊施設（カプセルホテル）、観光案内所、カフェ、コンビニエンスストア等を整備した複合施設である。琵琶湖に向けて歩行区間や、にぎわいイベント等が開催できる広場が整備されている。



出典: JR 西日本ホームページ、JR 西日本不動産開発株式会社ホームページ



簡易宿泊施設



観光案内所



カフェ



コンビニエンスストア

出典: TRIPS ホームページ(簡易宿泊施設写真)、おおつうしんホームページ(観光案内所、カフェ、コンビニエンスストア写真)

(2) 子育てしやすいステーションエリアの創造

交通の利便性が高く、商業機能が充実している駅周辺に、駅利用者が通勤時に子どもを預けることができる保育園や、一時的に子どもを預けることができる施設を整備することで、ワークライフバランスを保ちながら楽しく子育てができる環境を整える。また、子育て中の親同士が子どもを遊ばせながら交流できるカフェスペースを整備する等、子育てしやすいまちづくりを進める。

(主な取組の一例)

子育て支援機能の整備

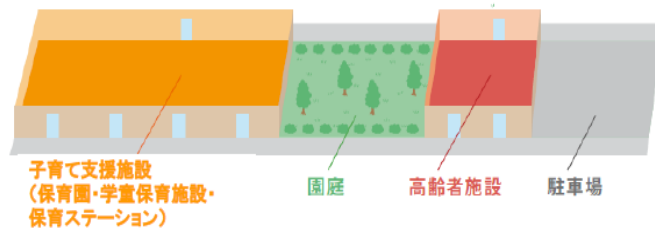
- ・子どもの預かり機能の整備（保育園、託児所等）

等

【イメージ例】

■コトニア越谷レイクタウン（武蔵野線 越谷レイクタウン駅）（埼玉県越谷市）

JR 東日本グループが推進する、子育て支援と高齢者福祉の複合施設「コトニア」。施設は、保育園・学童保育・一時保育・デイサービスが同じ敷地に整備され、児童とお年寄りが園庭で日常や季節イベント等を行う等、多世代交流を推進している。



出典：東日本旅客鉄道株式会社 大宮支社 平成 30 年 3 月 22 日付案内文
「～子育て支援から多世代交流へ～埼京・武蔵野線に新たな子育て支援施設が誕生します。」

人が集い、時を過ごせる空間の整備

- ・子どもの遊びスペース・見守り機能の整備
- ・子育て世代のニーズに合わせたカフェや飲食店の誘致
- ・イベント等を実施できる駅前広場の整備
- ・子どもを中心に多様な人が集えるスペースの整備

等

■「まちなか交流広場 “ステージえんがわ”」（新潟県三条市）

生涯にわたり健康で幸せに暮らし続けられる「スマートウェルネス三条」を掲げ、その拠点として整備。誰もが気軽に立ち寄ることができる「縁側」のような空間は、ヒト・コト・マチ・をつなげるハブ機能を有し、持続可能な新しいまちづくりを目指す新たな拠点となっている。



(3) 文教ゾーンとしてのにぎわいの創出

学生が駅での待合時間等に利用できる学習スペースや居場所を駅周辺に整備することで、学生の利便性を確保する。併せて、会議スペースを整備し、学外での学生の学びの拠点としての活用や、学生と住民、事業者等をマッチングする空間を設けることで、地域におけるフィールドワークでの利用や、学生創業等の活動を支援する。そのほか、空き家の利活用について、学生が企画提案しリノベーションを行う等、学生が主体的に地域との関わりを持ちながらまちなかを整備し、学生でにぎわう駅周辺エリアを目指す。

(主な取組の一例)

学生が立ち寄るまちの空間形成

- ・ 学習スペース及び会議スペースの整備
- ・ 学生と住民、事業者等の交流拠点の整備
- ・ 学生寮や学生シェアハウスの整備
- ・ 学生創業のチャレンジショップの整備

等

【イメージ例】

■金沢学生のまち市民交流館（石川県金沢市）

平成 22 年の「金沢市における学生のまち推進に関する条例」制定を背景に学生と市民のまちなかの交流拠点として金沢市が設置した施設で、「学生の家」「交流ホール」の 2 つの建物からなる。施設内には誰でも無料で利用できるフリースペースと有料の会議室等があり、学生の活動を地域住民が支援し、まちのにぎわい創出を図る拠点となっている。

※会議室等は、学生で構成する団体、高等教育機関、町内会その他の地域団体等は無料で利用できる。



金沢学生のまち市民交流館 学生の家（2012 年 8 月竣工）



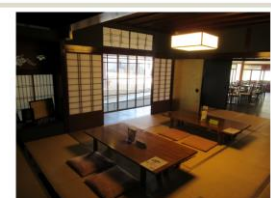
土蔵（どそう）
（フローリング20帖、収容人数15人）



交流ホール
（和室81帖、収容人数100人）



フリースペース
サロン（フローリング33帖）

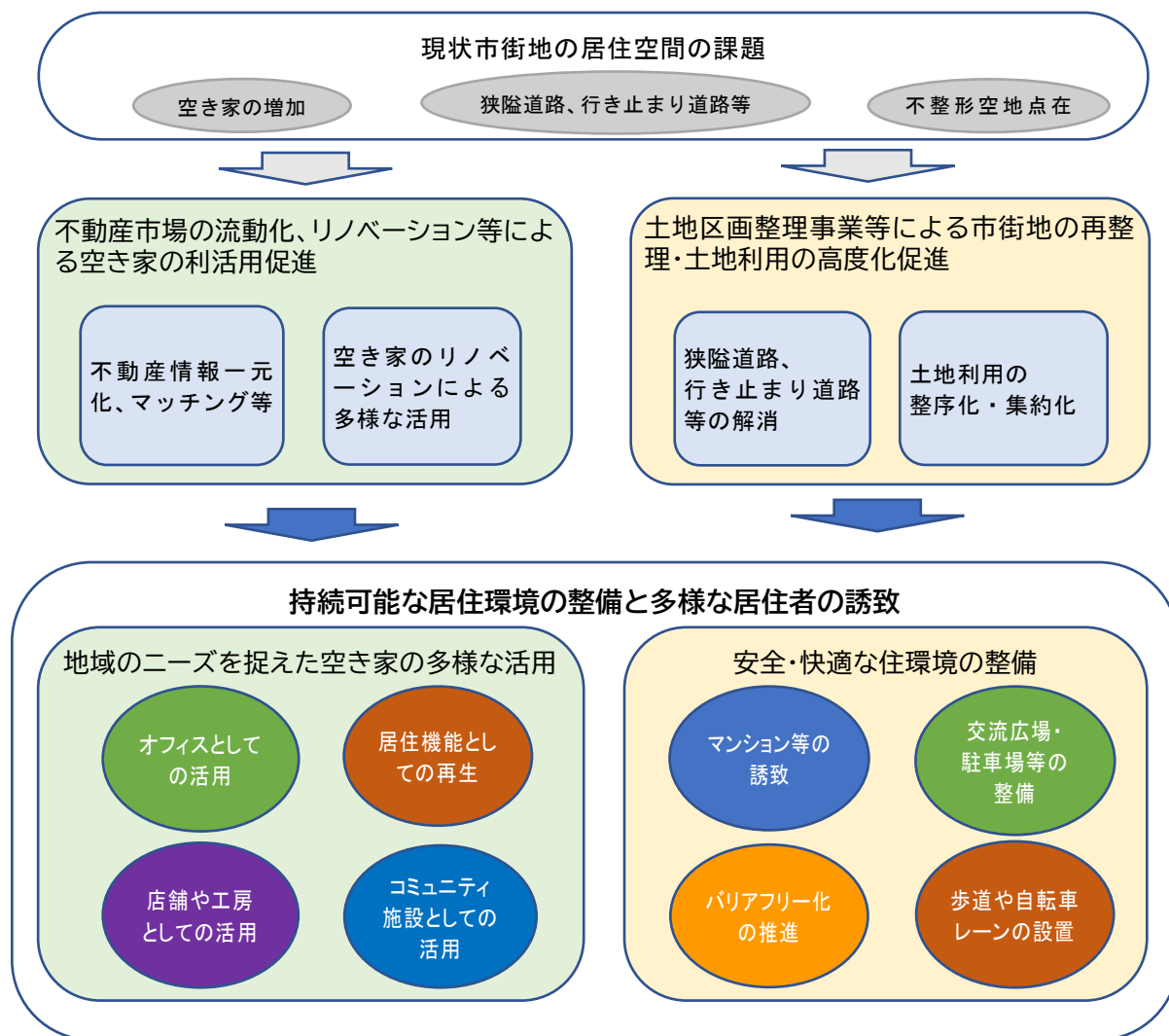


和室・通り間（和室12.5帖）

出典：金沢学生のまち市民交流館ホームページ(金沢市)

2 安全・快適で住み続けたい市街地環境の整備

駅北側の地域には空き家が多く、今後も居住者の高齢化とともに増加することが予想される。市街地環境の質の低下を防ぐためにも、良質な空き家等が有効に活用されるよう、不動産の流動化を促進し、地域ニーズを捉えた多様な活用を推進する。土地区画整理事業等で整序・集約化した空間を活かしてマンション等の誘致や駐車場・広場等の整備等、都市型の住空間整備に取り組む。



(1) 空き地・空き家のリノベーションによる多様な活用

空き地・空き家の実態把握と利活用のための仕組み等を整備し、空き家利用希望者への情報発信や空き家所有者への意識改革に関する取組を一層強化するとともに、地域のニーズに合わせた空き家の利活用を推進する。また、民間事業者の参画を促進し、民間活力を活かした多様な空き家の利活用を図る。

(主な取組の一例)

地域のニーズに合わせた空き家等の利活用

- ・ オフィスとしての活用
(コワーキングスペース、サテライトオフィス、シェアオフィス等の整備)
- ・ 居住機能としての再生 (移住者向け住宅、学生寮や学生シェアハウス等)
- ・ 店舗や工房としての活用 (体験型サービス拠点としての整備)
- ・ チャレンジショップとしての活用 (シェアキッチン、学生創業支援等)
- ・ コミュニティ施設としての活用 (多様な人が集う交流スペースの整備) 等

【イメージ例】

■ 空き家をシェアオフィスに再生 (神奈川県川崎市)

事業者が築 90 年以上という元診療所兼住宅をシェアオフィスに再生し運営している。シェアオフィス 5 室のほか、コワーキングスペース、2 つのレンタルスペースにカフェ等を備える。



出典: 健美家ホームページ

■ 空き家を地域交流施設に再生 (福岡県福岡市)

事業者が築 40 年を超える空き家を活用して地域交流スペースを整備し、近隣の人々がふらりと立ち寄れるカフェ、休憩・おむつ替えのスペース、学校帰りに宿題ができる場所、チャレンジショップ等を備える。



出典: 吉浦ビルホームページ

(2) 安全・快適な住環境の整備

道路が狭隘で街区形成が不十分なため、土地利用効率や防災性能の低いエリアについては市街地環境の改善（良好な街区形成、防災機能の向上等）を図る。また、エリアの再整備により集約化した空間を活かし、安全で歩いて楽しいまちづくりを推進するとともに、駐車場や広場等の整備を図ることで、継続して人が住み続けることができる時代に即した居住環境の整備を図る。

(主な取組の一例)

市街地環境の改善

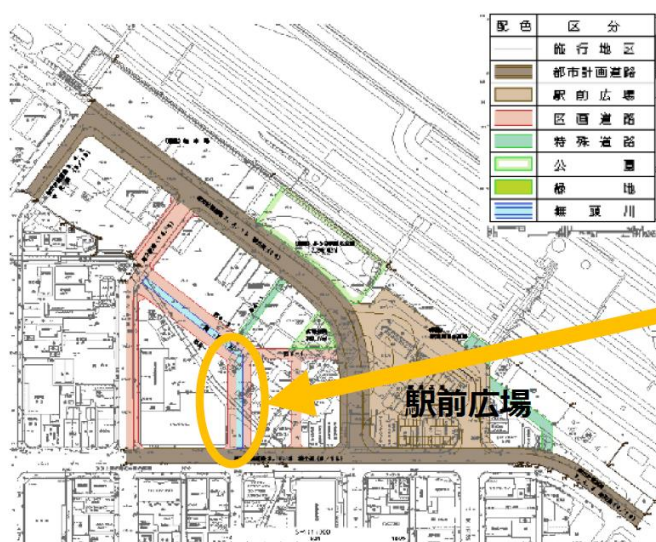
- ・エリアの再整備（土地区画整理事業・市街地再開発事業等）
- ・都市型住空間の整備（マンション等）
- ・バリアフリー化の推進
- ・歩道や自転車レーンの設置及び拡幅
- ・駐車場や広場等の整備

等

【イメージ例】

■富良野駅前地区集約換地型区画整理事業（北海道富良野市）

バラバラに分布する敷地を土地区画整理事業の申し出換地で集約（大きな街区を形成）し、その土地に市街地再開発事業により、住宅、店舗、中心街活性化センターを整備している。



出典:国土交通省資料(土地区画整理事業活用事例)

（３）多様性のある地域社会の形成

高齢者、障がい者、移住者、外国人等の全ての人が、社会参加しながらいきいきと活動できる多様性のある地域社会の形成を図るとともに、ユニバーサルデザインのまちづくりの推進を図る。

また、本市は高等教育機関に通学する留学生や外国人住民の割合が多いという特性から、外国人向け生活支援相談窓口を設置することや、多様な言語に対応した多様な媒体（ケーブルテレビ・広報紙等）による行政・生活情報の提供体制を構築し、外国人にも優しい住環境を目指す。

(主な取組の一例)

高齢者、障がい者、移住者、学生、外国人等の活躍の場の整備

- ・ 様々な主体が活躍できる社会参加しやすい仕組みの検討
- ・ 人が集い、交流できる拠点の整備

等

【イメージ例】

■シェア金沢（石川県金沢市）

社会福祉法人が運営するシェア金沢では、サービス付き高齢者住宅に居住する高齢者を始めとして都市部からの移住者や学生等が、ボランティア・農作業・多世代交流・住民自治等を行いながら生活している。また、ケアが必要になった場合には、併設事業所等から介護等のサービスを受けることができる。

◎シェア金沢の全体像（総面積：約11,000坪）

-  : サービス付き高齢者向け住宅
 : 障害児入所施設  : 学生向け住宅



◎運營主体・住民

- ・運営主体：社会福祉法人佛子園
- ・取組開始：2013年9月
- ・高齢者住宅の戸数：全32戸
- ・入居者：単身、夫婦
- ・年齢：60代～90代
- ・元々の居住地：金沢市、石川県内（金沢市以外）、県外（東京圏、大阪圏など）
- ・要介護度：自立（非該当）、要支援、要介護

◎住まい・まちづくり

- ・1戸の居住スペース：42～44㎡
(LDK(10畳)、寝室(6.6畳)、クアインクベツト(2.9畳)・浴室・洗面・トイレ) ※その他、複数世帯の共有スペースあり
- ・バリアフリー構造、ペットも入居可。賃貸借契約。
- ・多世代(高齢者・障害児・学生)の住居をバラバラに配置し、交流推進。

◎活動

- ・希望に応じて共同売店での就労ボランティアに従事（売上は従事者で配分）
- ・農園での農作業の実施も可能。
- ・居住する高齢者・学生による住民組織が組織されている。
- ・居住する障害児・学生や、周辺地域から店舗等に来訪する地域住民などとの交流が盛ん。（多世代交流）

◎ケア

- ・要支援・要介護者は併設している訪問介護事業所の介護サービスを利用（地域の他事業所を継続して利用している者もいる）。
- ・医療が必要な場合に備え、医療機関と提携している。

(資料) シェア金沢ホームページ等に基づき作成。

出典:まち・ひと・しごと創生本部 日本版 CCRC 構想に関する地方自治体との意見交換会 資料5(社会福祉法人佛子園資料)より抜粋

外国人に優しい住環境の整備

- ・ 多様な言語、多様な媒体（ケーブルテレビ・広報紙等）による行政・生活情報の提供
- ・ 多文化共生の拠点づくり
（多文化共生の社会をともに創るための交流・活動拠点の整備）
- ・ 外国人向け生活支援相談窓口等の設置

等

■八千代市多文化交流センター（千葉県八千代市）

市内に在住する外国人が生活する上での相談窓口の設置や多言語での情報発信等、ともに地域づくりに参加できる環境づくりの拠点として、八千代市が商店街の空き店舗を活用して開設した施設である。

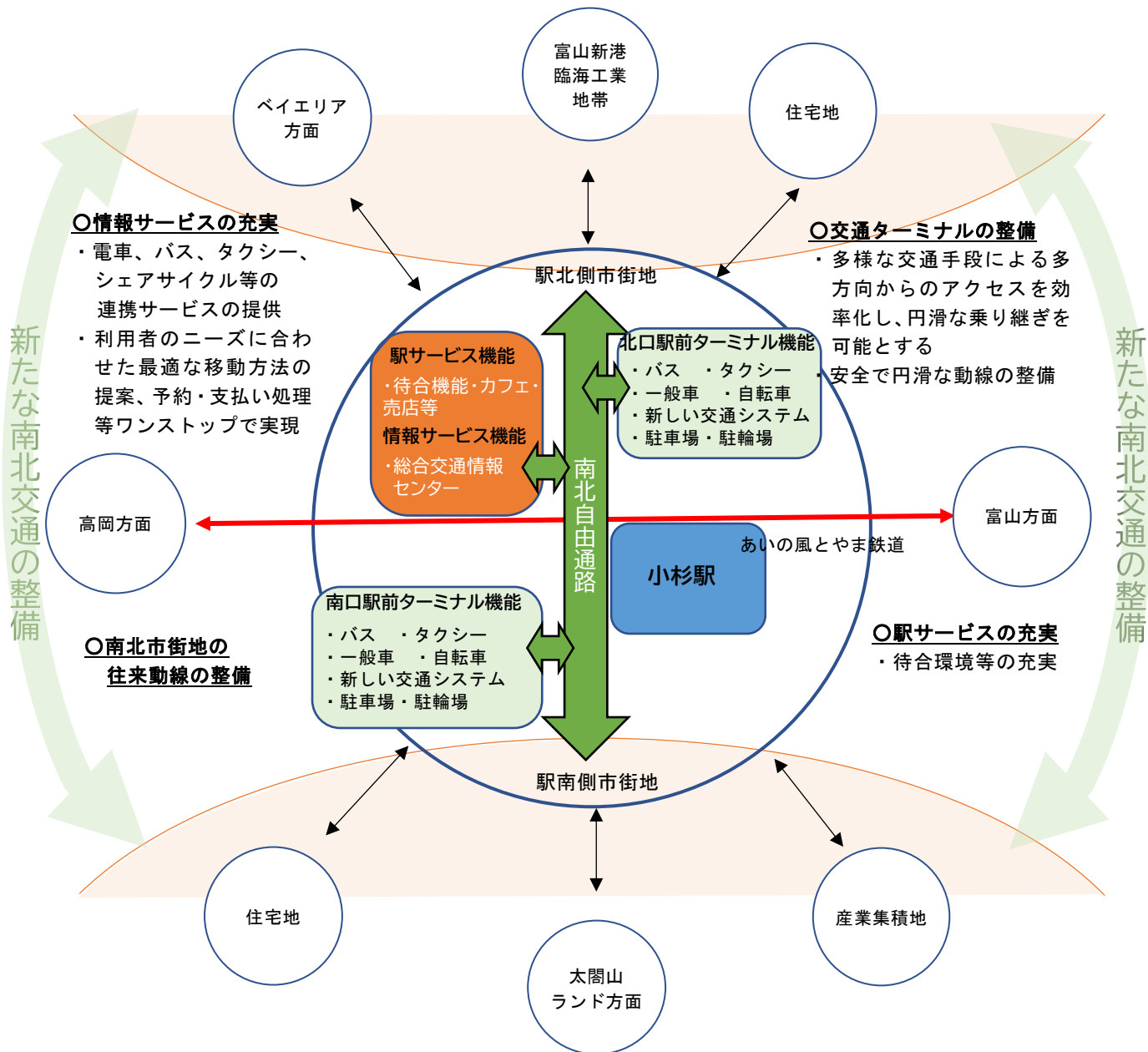


出典：八千代市ホームページ

3 まち・ひと・ものをつなぐシームレスな交通ネットワークの形成

本市の陸の玄関口として、産業集積地域や住宅地・観光地へのアクセス向上を図るため、駅を中心とした交通拠点として整備し、シームレスで利便性の高い交通ネットワークの確立を目指す。また、ICT や IoT 技術を活用した※DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進により、あらゆるものをつなぎ合わせ駅の利便性向上を目指す。

※DX(デジタルトランスフォーメーション)：デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること



(1) 交通ターミナルの整備とネットワークの強化

多様な交通手段による多方向からのアクセスに対して、円滑な乗り継ぎを可能とする交通ターミナルを整備する。また、待合環境及び情報提供の充実を図るため、駅前広場及び駅サービス機能の再整備を図る。更には、D Xの推進により、公共交通の自動運転等の検討を進める。

(主な取組の一例)

快適な交通ターミナルの整備

- ・公共交通ターミナルの整備
- ・快適な待合環境の整備
- ・パーク&ライド、まち歩き等に対応できる駐車場の整備 等

多様な2次・3次交通機能の乗り入れ拡充と乗り継ぎの利便性の向上

- ・2次・3次交通への利便性の向上
- ・シェアサイクルステーションの整備 等

DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進

- ・自動運転等の新たな技術を活用した交通システムの導入
- ※- ・Maasの促進による地域交通の利便性向上 等

※Maas(Mobility as a Service):交通をその種別等に関わらず移動のための一連の手段として位置づけ、それらをICTの活用により、一つの統合されたサービスとして捉える概念

【イメージ例】

■土佐くろしお鉄道 中村駅（高知県四万十市）

待合空間で学生等が学習スペースとして使用できるように整備されている。また、イベントスペースとしても利用できる広い空間を確保している。



出典:土佐くろしお鉄道株式会社 公式ホームページ

■自動運転バス 公道の定常運行（茨城県境町）

自治体が自動運転バスを公道で走らせて定時運行する国内初の事例として 2020 年 11 月より運行している。境町が自動運転バス 3 台を購入し、運行業務を事業者に委託。事業者は複数の自動運転車両の運行を遠隔地から同時に管理・監視できる自動運転車両運行プラットフォームで、自動運転バスの運行を管理している。運行ルートはまちの中心部に設定された往復約 5km のコース。2 台を 1 日 16 便運行させて、その間に残る 1 台の充電やメンテナンスを行う体制を整えている。

(乗車人数：11 名、乗車料金：無料、走行速度：18 km)



出典：茨城県境町ホームページ



■HELLO CYCLING、ドコモ・バイクシェア（シェアサイクルシステム）

スマートフォンやタブレット等の携帯端末専用アプリで全国共通で利用できる新しいシェアサイクルサービスシステムを使って予約・貸出・返却・課金処理や鍵の制御、バッテリー残量・GPSによる位置情報の取得等のサービスが利用できる。電動アシスト自転車を使用し、サイクルポートの設置には大掛かりな工事は不要で、自転車スタンドとビーコンを設置するだけでわずかなスペースでも設置することができ、全国各地で展開されている。



出典:HELLO CYCLING ホームページ



出典:ドコモ・バイクシェア ホームページ

（２）鉄道を横断する南北交通の整備

駅の南北間の一体的な利活用やにぎわいを創出するため、駅と一体となった歩行者のための自由通路の整備を図るとともに、車両等においてもスムーズで安全な南北交通の実現を図る。

（主な取組の一例）

安全で快適な南北交通の検討

- ・ 小杉駅の自由通路の改善・整備（駅の橋上化、※ペDESTリアンデッキの検討等）
- ・ 新たな南北道路の整備検討 等

※ペDESTリアンデッキ：駅の橋上化と合わせて南北を結ぶ歩行者路として鉄道及び駅前広場上空等に整備される高架構造物で通路空間と広場空間で構成される。

【イメージ例】

■あいの風とやま鉄道 石動駅(富山県小矢部市)

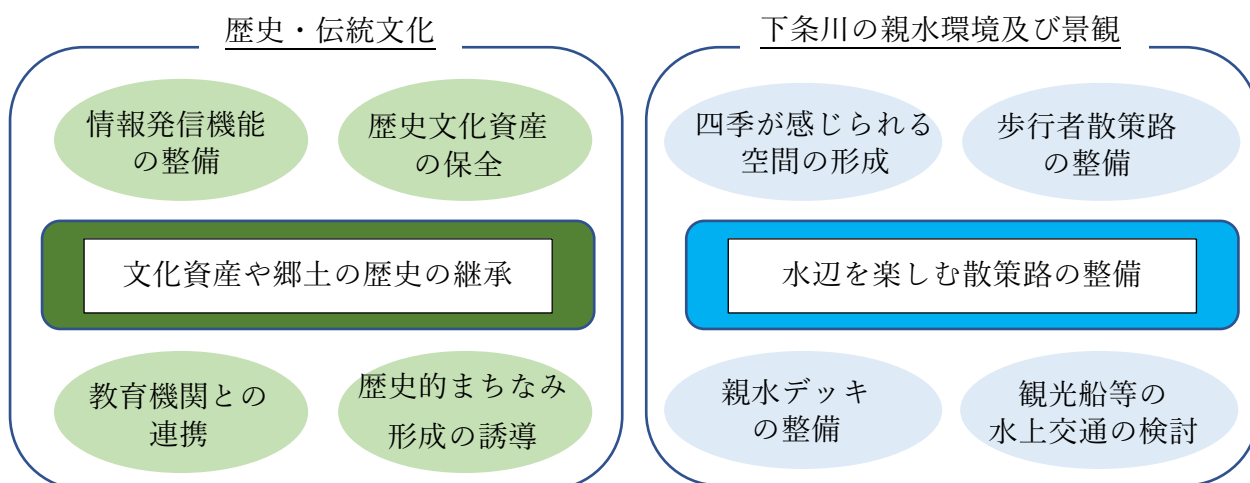
石動駅・市民図書館合築施設を整備するとともに、南北を結ぶ自由通路が整備されている。



出典：小矢部市ホームページ

4 歴史・文化・自然を継承するまち・ひとづくり

本地区は、旧北陸道の宿場町として発展した歴史・文化や下条川の美しい水辺空間等のまちの魅力があり、それらを活かした四季折々の祭りやイベント、郷土の偉人を将来に語り継ぐフォーラムを開催する等、地域が一体となってまちの活性化に取り組んでいる。これらの取組を継続するとともに、地域に関わる多様な人々と連携協働しながら、魅力が溢れるまちづくりを目指していく。



(1) 歴史・文化の継承とまちなみの形成

旧北陸道の宿場町として発展したエリアには史跡や神社仏閣等の歴史・文化遺産が多く存在しており、鰻絵や小杉焼等の伝統工芸や文化が受け継がれている。これらのまちの持つ魅力を活かし、まちなみ形成を行うことで、郷土意識の向上やまちのにぎわい形成を図る。

また、地域が主体となって実施しているイベント等において、周辺の高等学校・高等教育機関との連携を強化する等、地域に関わる多様な人々への地域参加促進を図ることで、まちの活性化を推進していく。

(主な取組の一例)

歴史・文化の保全と活用

- ・歴史及び文化資産の保全と継承
- ・歴史的まちなみ形成
- ・情報発信機能の整備
- ・高等学校・高等教育機関との連携

- ・地域活動への学生の参画促進
- ・まちの景観を活かした[※]インスタレーション・アートの実施

等

※インスタレーション・アート: 展示空間を含めた全体を作品として観客がその場で体験できる芸術作品

■旧北陸道アート in 小杉

旧北陸道沿いの魅力ある歴史・文化が感じられるまちなみにおいて、アートの展示やスタンプラリー等のイベント、コンサート等を行っている。旧北陸道沿いの商店街においては、木象嵌の体験や商店街の商品を使った料理教室を実施する等、まちが一体となって開催している。



資料:旧北陸道アート in 小杉 Facebook

■鰻絵看板

鰻絵を描く左官職人として初代帝国ホテルや中国大連の銀行の建物等、国内外を代表する建築物に携わった竹内源造が生まれた故郷であることから、鰻絵という伝統文化はこの地域の特色である。その特色を活かし、旧北陸道のまちなみの商店街を中心に、鰻絵の看板を掲げている。これらの鰻絵看板は、平成 17 年から 23 年にかけて、射水市商工会が地区内の各商店等と協同で制作したものであり、歴史と文化を感じられるまちなみの景観の一つとなっている。



（２）下条川の親水環境・景観の充実

伊勢領橋から大江橋までの下条川両岸に整備された約 2.7km にわたる桜並木は開花時期に美しい景観を形成する。加えて、川沿いには散策路とともにポケットパーク等の公園や緑地が整備されている。これらの景観の魅力を一層高めるため、親水デッキの設置等、水辺空間の整備を推進していく。また、草木等の管理による景観の保全を図るとともに、四季が感じられる空間の形成や観光船や水上バスの運行等を検討し、散策路としての充実を図っていく。

（主な取組の一例）

下条川の水辺空間の保全と活用

- ・ 散策路の整備
- ・ 四季が感じられる空間の形成
- ・ 親水デッキの整備
- ・ 下条川の維持管理（水質改善や川底の土砂浚渫、草木等の管理）
- ・ 観光船等の水上交通の検討 等

■ 下条川の桜並木

下条川の両岸に整備された約 2.7km にわたる桜の散策路は、開花時期には桜並木が美しく彩られる。



資料：富山県ホームページ（富山さくらの名所 70 選）

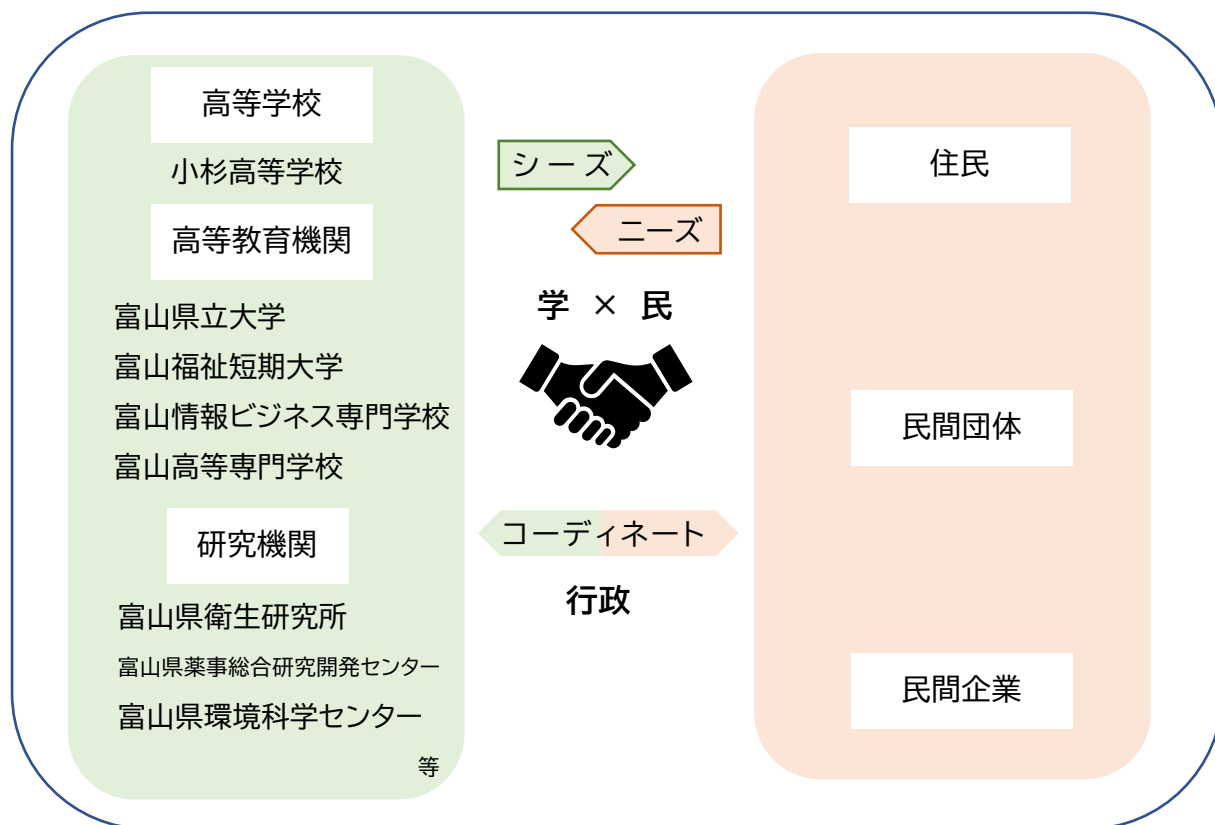
■ 下条川における花見遊覧船の実証運行

（区間：高寺橋～稲積 期間：平成 29 年 4 月 1 日～9 日）



5 「知」の拠点とともに創る次世代のまちづくり

高等教育機関や研究機関が集積する強みを活かし、地域や行政を含めて連携できるプラットフォームを構築する等、連携体制を整備することで、地域の課題解決やまちの活性化を図る。



(1) 学生が主体的に関わる交流・活動の場の創出

駅周辺において、会議スペース等、学外での学生の学びや交流の拠点を設けることで、地域におけるフィールドワークでの利用や、授業カリキュラム外での学生の地域活動等の促進を図る。

(主な取組の一例)

学生と地域との交流、連携の機会創出

- ・ 学生と地域との交流の機会創出及び交流拠点の整備
- ・ 地域活動への学生の参画促進
- ・ フィールドワーク等の学生のまちづくりへの参画機会の創出 等

(2)「知」のプラットフォームとしての拠点の創出

学術研究機関、行政、住民、事業者等、地域に係る多様な主体が参画する連携体制を構築し、「知」のプラットフォームとして地域課題の解決を図るとともに、新たなまちづくりを推進する。

(主な取組の一例)

高等教育機関等のネットワークの強化と地域との連携創出

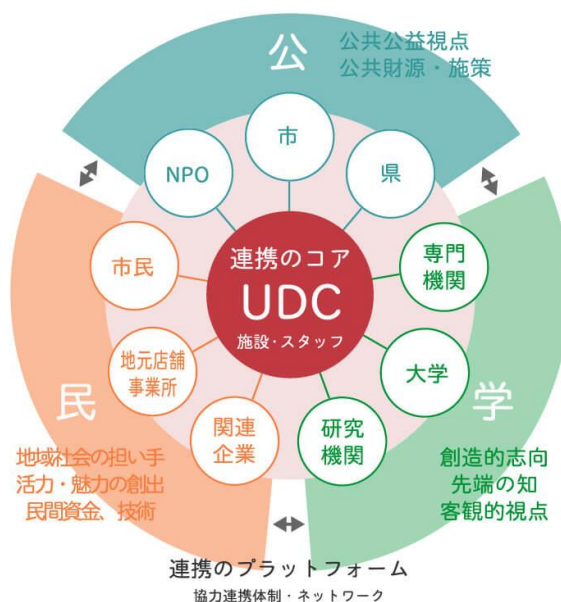
- ・産学官・地域連携の拠点の整備（アーバンデザインセンター(UDC)設立の検討等）
- ・市内高等教育機関のコンソーシアムの設立 等

【イメージ例】

■アーバンデザインセンター

(課題解決型＝未来創造型まちづくりのための公・民・学連携のプラットフォーム)

行政都市計画や市民まちづくりの枠組みを超え、地域に係る各主体が連携し、都市デザインの専門家が客観的立場から携わる新たな形のまちづくりの組織及び拠点。全国 21 拠点到展開し、それぞれの UDC で課題やプレイヤー構成は異なるが、従来の行政主導型・住民主導型・企業主導型といった枠組みを超え、各拠点では「新たなまちづくりスキーム」が模索・構築されている。



出典:アーバンデザインセンター坂井(UDCS)ホームページ

第4章 小杉駅周辺地区の整備について

1 土地利用ゾーニング

前章のまちづくり基本方針を具体的に地域で展開するに当たり、以下のような土地利用ゾーニングを基本に機能の配置及び施設の整備を検討する。

① ステーションエリア

本市の都市中核拠点の中心に当たり、駅が持つ広域アクセスの利便性、集客力を活かして駅及び周辺に集中的・戦略的に多様な都市機能の集積を図るエリアである。子育てや学習支援、交流機能、新たなワークスタイルに対応したスペースや商業・サービス施設の立地誘導等を積極的に進め、多くの人が集い、行き交い、魅力と活気に溢れるエリアの形成を図る。

② 駅北市街地ゾーン(小杉駅北側エリア)

旧北陸道中心に市街化したエリアであり、商店街を中心に形成されているまちなみには市民の交流拠点として救急薬品市民交流プラザが整備されている。商店街や既存施設等と連携を図りながらまちづくりを進めることで、地域の利便性の向上やまちの活性化を図っていく。

また、このエリアにおいては狭隘道路や不整形な敷地が多く、空き家・空き地も発生しているため、空き家等の活用により面的な市街地の再整備を進め、多様な世代に選ばれる安全・快適な住環境の形成を図る。

③ 駅南市街地ゾーン(小杉駅南側エリア)

南側エリアは計画的に市街化が図られたことにより、生活道路や街区が整った良質な居住空間を形成している。こうした優位性を活かし、残されている未利用宅地での居住の促進を図るとともに多様な世代に選ばれる快適で安全な住環境の形成を図る。

④ 賑わい・交流軸

駅を起点に学生をはじめ多くの人が行き来する象徴的な通りである。この沿道において、通勤・通学の途中で気軽に立ち寄り快適な時間を過ごせるような機能を整備することで、学生のまちなかへの誘導や滞留を促し、まちなかのにぎわいを創出する。

⑤ 歴史・文化のまちなみ形成軸

旧北陸道沿いの歴史・文化資源を活かして、歴史的なまちなみ景観の形成を図るとともに、鰻絵や小杉焼等の伝統工芸の体験やまち歩きが楽しめる環境を整備することで、まちの魅力の向上を図る。

⑥ 水辺景観軸・水辺を楽しむゾーン

下条川の桜並木等の美しい景観や自然環境の維持・保全を図りつつ、水と緑が調和した四季折々の美しい景観を楽しみながら散策ができるゾーンの形成を図る。

⑦ 南北自由通路及び南北道路

駅利用者や市民の快適な南北交通を実現するため、南北自由通路の整備を図る。また、車両等の南北交通については、駅周辺地区だけではなく本市全体の道路整備として検討し、スムーズな南北交通の形成を図る。

[illegible]

〈プロジェクト別推進体制・スケジュール・対象エリアのイメージ〉(1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成)

まちづくり方針	取組方針	事業イメージ	内 容	推進体制			想定スケジュール			対象エリア									
				行政	学術・研究・機関	交通・事業・業者	民間・企業	民間・団体	住民	短期 (5年以内着 手目安)	中期 (5～10年 以内 着手を目安)	長期 (10～20年 以内 着手を目安)	ステーション エリアゾーン	駅北・ 駅南 市街地・市外 エリアゾーン	駅南・ 駅北 市街地・市外 エリアゾーン	歴史・ 文化の まちを 形成 する エリア	水辺 の 景観 形成 する エリア	全域	
1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成	(1) アクセシビリティ、集客力を活かした市民交流機能・都市機能の充実	駅の多機能複合化	・ 駅利用者や市民のニーズにあった機能 ・ PPPの手法を活用する等、民間活力の活用	○	○	○	○		○	――	――	――							
		地域の交流スペースの整備	・ 地域住民や学生等が集い、交流を楽しむ機能・スペース (周辺の交流施設の活用も含め検討する)	○			○	○	○	――	――	――	○	○					
		学習や仕事等、多用途で利用できるスペースの整備	・ 学習スペース ・ 社会人が仕事等を行えるスペース (シェアオフィス、ビジネスマッチングのスペース等)	○			○			――	――	――	○	○					
		交通ターミナルの整備	・ 駐車場や公共交通乗降者場（ロータリー）等	○			○			――	――	――	○						
		駅周辺への商業・サービス施設等の立地誘導	・ 交通便利性を活かした店舗等の立地を誘導によるにぎわい形成	○			○			――	――	――	○	○					
	(2) 子育てしやすいステーションエリアの創造	救急薬品市民交流プラザ等の既存施設の活用	・ 市民の交流スペースやイベント等の会場として活用 ・ 駅からの動線を確保する等のまちづくりにおける連携推進	○			○	○	○	――	――	――	○						
		商店街の活性化	・ 駅から駅周辺のまちなみへの動線の確保 ・ 空き家や空き店舗を活用した事業者支援	○			○		○	――	――	――	○					○	
		子育て支援機能の整備	・ 保育施設、子どもの一時預かり施設等 (現在の保育施設や市民のニーズと調整し検討)	○			○	○		――	――	――	○	○					
		人が集い、時を過ごせる空間の整備	・ 子どもから高齢者までが長時間楽しく過ごせる交流の場 ・ 子どもが安全で自由に遊べるスペース等 ・ イベント等が実施できる駅前広場	○			○	○		――	――	――	○	○				○	
		学習スペース及び会議スペースの整備	・ 学生が気軽に立ち寄ることができる学習スペースや会議スペース等を備えた空間	○	○		○	○	○	――	――	――	○						
(3) 文教ゾーンとしてのにぎわいの創出	学生と住民、事業者等の交流拠点の整備	・ まちづくりに関心のある学生を対象にフィードバックを実施することができる拠点 ・ 学生と住民、事業者等をマッチングする空間	○	○		○	○	○	――	――	――	○	○				○		
	学生寮や学生シェアハウスの整備	・ 学生のニーズに応える居住機能	○	○		○	○	○	――	――	――	○					○		
	学生創業のチャレンジショップの整備	・ 創業意欲のある学生たちに活躍できる場	○	○		○	○	○	――	――	――	○					○		

--- 検討・調整等 → 事業着手

〈プロジェクト別推進体制・スケジュール・対象エリアのイメージ〉（2 安全・快適で住み続けたい市街地環境の整備）

まちづくり方針	取組方針	事業イメージ	内 容	推進体制						想定スケジュール				対象エリア					
				行政	学術・研究機関	交通事業者	民間企業	民間団体	住民	短期 (5年以内着手目安)	中期 (5～10年以内着手を目安)	長期 (10～20年以内着手を目安)	ステーションエリア	駅北・市街地ゾーン	駅前・市外ゾーン	賑わい・交流軸	歴史・文化のまちづくり形成	水辺・景観	全域
2 安全・快適に住み続けたい市街地環境の整備	(1) 空き地・空き家のリノベーションによる多様な活用	地域のニーズに合わせた空き家等の利活用	・オフィスとしての活用 ・居住機能としての再生 ・店舗や工房としての活用 ・チャレンジショップとしての活用 ・コミュニティ施設としての活用	○	○		○	○	○	――	――	――		○	○				
				○			○		○	――	――	――		○					
	(2) 安全・快適な住環境の整備	エリアの再整備 (土地区画整理事業、市街地再開発事業等)	都市型住空間の整備	多様な世代に選択される安全・快適な住空間を整備 ・マンション ・子育て世代向けの住宅 ・高齢者向けのサービス付き住宅 ・移住者や学生向けの住宅	○			○		――	――	――		○	○			○	
					○			○		――	――	――		○					
					○	○				――	――	――							
		歩道や自転車レーンの設置及び拡幅	・歩道や自転車レーンの設置及び拡幅等による歩いて楽しめる空間形成	○						――	――	――		○					
				○						――	――	――							
				○			○			――	――	――		○	○				
				○						――	――	――							
				○						――	――	――							
	(3) 多様性のある地域社会の形成	高齢者、障がい者、移住者、学生、外国人等の活躍の場の整備	・様々な主体が活躍できる社会参加しやすい仕組みの検討 ・人が集い、交流できる拠点整備	○	○		○	○	○	――	――	――		○	○	○		○	
				○			○			――	――	――							
				○						――	――	――							
				○			○	○	○	――	――	――		○	○	○	○		
				○						――	――	――							
		外国人向け生活支援相談窓口等の設置	・外国人が安心して暮らすための支援サービス窓口等の設置	○				○			――	――	――		○				
				○						――	――	――							
				○			○	○	○	――	――	――		○	○	○	○		
				○						――	――	――							
				○						――	――	――							

―― 検討・調整等 → 事業着手

〈プロジェクト別推進体制・スケジュール・対象エリアのイメージ〉（3 まち・ひと・ものをつなぐシームレスな交通ネットワークの形成）

[illegible]

▲検討・調整等 → 事業着手

〈プロジェクト別推進体制・スケジュール・対象エリアのイメージ〉（４ 歴史・文化・自然を継承するまち・ひとつくり）

まちづくり方針	取組方針	事業イメージ	内 容	推進体制				想定スケジュール			対象エリア						
				行政	学術 研究 機関	交通 事業者	民間 企業	民間 団体	住民	短期 (5年以内着 手目安)	中期 (5～10年 以内 着手を目 安)	長期 (10～20年 以内着目 を目安)	ステーション エリア	駅北 地区 (市街地ゾーン)	駅前 地区 (駅前ゾーン)	歴史・ 文化の 継承・ まちの 景観 形成	水辺 景観 形成
4 歴史・文化・自然を継承するまち・ひとつづくり	(1) 歴史・文化の継承とまちなみの形成	地域の歴史及び文化資産の保全と継承	・ まちの魅力である歴史や文化資産の後世への継承	○				○	—	—	—		○		○		
		歴史的まちなみ形成	・ 歴史や伝統文化等の魅力を活かしたまちなみ形成	○				○	—	—	—		○		○		
		情報発信機能の整備	・ AR（拡張現実）技術を使った歴史・文化資産案内システム等 ・ まちの歴史や文化を発信できる拠点の整備	○	○		○	○	—	—	—		○		○		
		高等学校・高等教育機関との連携	・ 地域活動への学生の参加促進 ・ まちの景観を活かしたインスタレーション・アートの実施	○	○			○	—	—	—		○		○		
		散策路の整備	・ 下条川の桜並木等を活かした美しい景観を楽しめる散策路	○					○	—	—	—				○	
	(2) 下条川の親水環境・景観の充実	四季が感じられる空間の形成	・ 花植え活動等を促進 ・ 緑地空間の改善・整備	○				○	—	—	—		○			○	
		親水デッキの整備	・ 下条川の美しい緑地景観と水面の景観が楽しめる環境形成	○				○	—	—	—					○	
		下条川の維持管理	・ 下条川の適切な維持管理による美しい水辺環境及び景観を維持 (水質改善や川底の土砂浚渫、草木等の管理)	○				○	—	—	—		○			○	
		観光船等の水上交通の検討	・ 観光船や水上タクシーの運行の検討 (下条川の水辺環境や景観を楽しめる機能の整備)	○				○	—	—	—					○	

--- 検討・調整等 → 事業着手

〈プロジェクト別推進体制・スケジュール・対象エリアのイメージ〉（5 「知」の拠点とともに創る次世代のまちづくり）

まちづくり方針	取組方針	事業イメージ	内 容	推進体制						想定スケジュール			対象エリア					
				行政	学術・研究・機関	交通・事業・産学者	民間・企業	民間・団体	住民	短期 (5年以内着手を目安)	中期 (5～10年以内着手を目安)	長期 (10～20年以内着手を目安)	ステーションエリア	駅北・市街地・郊外ゾーン	駅前・市外ゾーン	隣接・周辺ゾーン	水辺・緑地・公園・交流場の形成	全域
5 「知」の拠点とともに創る次世代のまちづくり	(1) 学生が主体的に関わる交流・活動の場の創出	学生と地域との交流の機会創出及び交流拠点の整備	・授業カリキュラム以外の学生活動における地域との意見交換による課題の共有 ・学生がフィールドワークを実施することができる拠点の整備	○	○						○				○	○	○	
				○	○								○				○	○
				○	○								○				○	○
	(2) 「知」のプラットフォームとしての拠点の創出	産学官・地域連携の拠点の整備	・地域に関わる多様な主体が参画する連携体制及び拠点 (アーバンデザインセンター（UDC）設立の検討等）	○	○		○	○	○			○			○	○		
				○	○		○	○	○					○			○	○

--- 検討・調整等 ---> 事業着手

第5章 基本構想の推進に向けて

1 事業手法

① 事業化に向けた検討

基本構想は、地区の将来像、まちづくりの基本的な方針を示したものである。今後、具体化に向け、関係者との合意形成等を図りながら、基本計画・基本設計・実施設計等の計画の策定や諸手続、事業化に向けた検討を着実に進める。

② 多様な事業手法による段階的な整備

民間活力の導入による多様な事業手法や先進的取組等を参考に関係機関等と連携を図りながら、基本構想の実現に向けた最適な手法を検討・協議する。また、既存施設の活用・土地や建物の所有関係・事業期間・事業費等を十分に検討する等、実現可能なものから段階的な事業展開を図る。

③ 関係者等との協議・合意形成と民間活力の推進

基本構想の実現に向けて、関係機関や関係事業者、地権者等との協議・合意形成を推進する。特に、交通ターミナルの整備に関しては鉄道事業者との綿密な連携・調整のもと、事業の推進を図る。また、民間が主体的に参加できる体制を整え、民間事業者と合意形成を図りながら、民間主体による事業推進を図る。

④ 多様な主体の協働によるまちづくり推進

市民をはじめ、事業者や関係団体並びに学生等の多様な主体が協働でまちづくりを推進する。市民や小杉まちづくり協議会等との意見交換を実施するとともに、情報発信に努め、今後の計画策定から事業の実現にいたるまで、協働・連携により事業の推進を図る。

⑤ 公共施設の適正化、適正配置

複合的な公共施設整備にあたっては、公共施設の適正化・適正配置を念頭に施設の集約化等を図る。

2 駅の都市機能集約化イメージ

小杉駅を中心ににぎわいを創出し地域活性化を図るには、駅周辺の市街地の土地利用に加え、駅の都市機能を向上させ、交通ターミナルとしての役割を高める必要がある。駅の多機能複合化、都市機能の集積及び南北の一体的利活用を進めるに当たり、次のことを念頭に置き整備を検討するものとする。

① 多機能複合化

- ・ 駅利用者のニーズを捉えた施設整備や駅周辺の活性化を推進するため、射水市公共施設個別施設計画との整合性を図りながら公的空間の整備を図る。
- ・ 駅の交通機能に付加して、観光案内機能や学習・仕事を行うことができるスペースを設けることで、駅利用者の利便性の向上を図る。
- ・ パーク&ライドや子どもを預けることができる保育園や託児所等を整備し、子育て世代の支援を図る。
- ・ 学生や子育て世代等が利用しやすいカフェ等、商業機能の立地を図る。
- ・ ※P P P等の手法を活用した民間投資や商業・サービス業の誘致等、民間活力を積極的に活用する。 ※P P P：官と民がパートナーを組んで事業を行うという新しい官民協力の形態

② 駅舎機能

- ・ 鉄道やバス等の交通利用者の待合室を設け、乗り継ぎの利便性を担保する。
- ・ 移動や案内表示等のバリアフリー化を進め、利用しやすい駅舎を整備する。
- ・ 駅の整備に伴い、改札口の集約等を検討する。(駅北・駅南の2か所に設置されているあいの風とやま鉄道の改札口を1か所に集約し、改札業務の省力化を図る等)

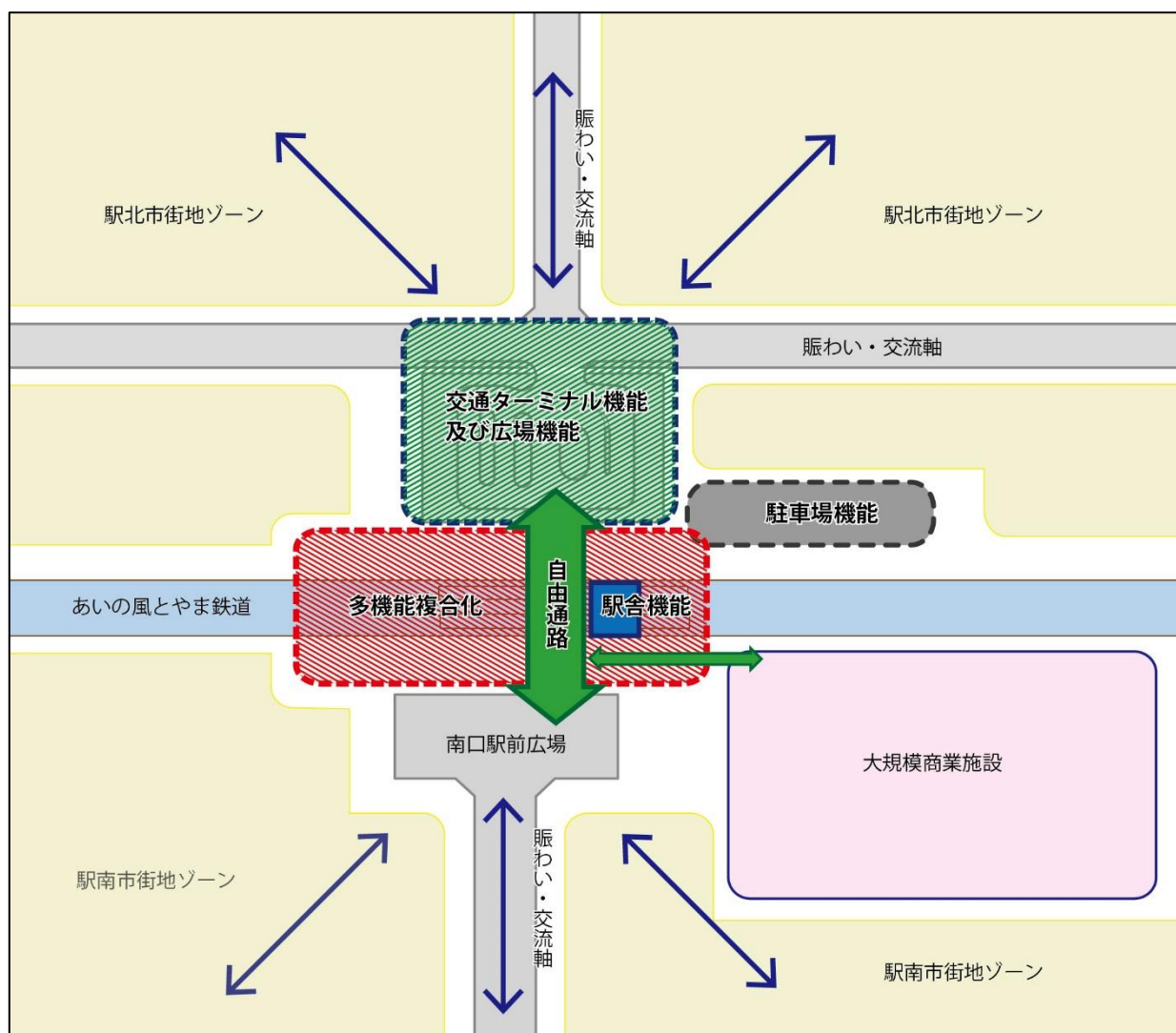
③ 交通ターミナル機能

- ・ 駅北及び駅南に交通ターミナルを設け、路線バス・コミュニティバス乗降場及びタクシー乗降場・送迎車場の整備を図る。
- ・ 駅周辺に駐車場を整備し、パーク&ライドの普及促進及び駅の利用促進を図る。
- ・ 駅を拠点に、東西南北に移動しやすい自由通路や連絡歩廊等を整備し、駅周辺の商業施設やにぎわい空間との連携を図る。

④ 広場機能

- ・ 駅または隣接部にイベント等に活用できる滞留の広場を設け、駅周辺のにぎわいを創出する。
- ・ 駅周辺の用地が制約されることから、ペDESTロリアンデッキ等の上空空間の活用を検討する。

■整備イメージ図



※整備イメージ図について

駅の南北間の一体的な利活用やにぎわいを創出するため、橋上に駅舎機能を設け南北自由通路の整備を検討する。

多機能複合化のエリアでは、交流スペースや子育て支援機能等の公的空間や、民間投資による商業・サービス機能の整備を図る等、利便性の向上により駅利用者が増加する空間の形成を図る。

駐車場機能においては、パークアンドライドやまち歩き、多機能複合化エリア利用者駐車場として、月極や時間貸しに対応した立体駐車場の整備を図る。

交通ターミナル機能及び広場機能のエリアでは、1階部分にバスやタクシー等の交通ターミナルを整備し乗り継ぎ等の利便性を高めるとともに、上空部分にペDESTリアンデッキや連絡歩廊等を整備することで、広場としての機能を確保する等、駅におけるにぎわい創出を図るとともに、周辺のまちなみへの動線を確保し、エリア全体の一体感を醸成する。